大日本蠶絲會報

第五拾壹號

明治二十九年九月

次目

◎論說
○繭の形狀に就きて　高橋信貞
○桑樹センバ病菌　市川延次郎
◎寄書
○人造絹の缺點を指摘して敍て蠶絲改良の注意を趣す　橋本重兵衛
○蠶種產附分量沿革　田島武平
◎統計
○二十九年七月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計○二十九年七月中絹布類輸出數量元價統計○二十九年一月より七月に至る生絲の海外賣込及內國積出統計○新潟縣西蒲城郡蠶業進歩一覽表
◎問答
○蠶組の害に就て質問井に答○蠶具洗濯に付質問井に答○蠶室構造法質問井に答
◎外報
○里昂蠶絲竝伊佛養蠶景況○廣東生絲商況○西班牙國蠶業近況○清國杭州の蠶業
◎雜報
○昨今兩年に於ける絲價○生絲檢査上外商の要望○各地方の秋蠶處報○橫濱生絲問屋の苦慮○人造絹絲製造所の擴張○人造絹絲に就て時事子の意見○出売繭の內地需用○桑皮繊製造の好況○生絲商組の閉店と開店○神戸蠶絲取引所に對する苦辯○神奈川縣下の桑園害蟲○清國に於ける蠶業勸奬○製絲工女の遊約を誡よ○朝鮮國人の蠶業談○蜘蛛網の絹絲○蠶種檢査不合格○北海道產業傳習所の卒業式○東京生絲取引所の認可○三重縣下製絲場の損害○高山製絲業者の休業○實業教育貳補助○橫濱生絲檢査所生絲檢査調○神戸生絲檢査所生絲檢査調○地道絲の汽船輸送○山梨縣の蠶種檢査○宮城縣名取郡四多賀村の蠶況○露國高加索の養蠶業○歐洲流行組織の法文○蠶兒生育景況○桑成次郎氏の名譽○神戸港生絲貿易の開始○三日間の生絲取引高○繭の改良は割下の急務○神戸生絲貿易の開始○三日間の生絲取引高○繭の改良は割下の急務○札幌蠶業傳習所蠶況○製絲紅場上に悲泣す○瑤琶湖の氾濫と江州の製絲場○叙任及出張○岩田次郎氏○蠶授寶章下賜

●大日本蠶絲會第二回品評會開設廣告

本會第二回品評會來る十月二十三日より二十五日まで三日間東京市赤阪區赤阪溜池町大日本農會々堂に於て開設候に付き會員諸君は成るべく御出品且つ御參觀あらむことを希望す但し本會々員外と雖も篤志者の出品は之を諾し可成的多數出陳致し度に付き右出品方精々御勸誘相成度此段特に希望致候也

◎大日本蠶絲會第二回品評會出品の種類其他要領左の如し

一 出品の種類並に數量を定むること左の如し

蠶種　一種に付(普通製一枚以上　框製五十蛾分以上

繭　同　一升以上

生絲　同　一捻(十八匁)以上

一 出品は總て出品人自家の產製に限るものとす

一 出品は品評會の費用を補ふ爲め總て本會へ寄附せらるゝものとす

一 出品は必ず會場に遞送せらるべし但し出品運送費は總て出品人の自辨とす

一 審査は十月十八日より着手すべし

一 出品は審査委員之を審査し其優等なるものには褒賞を贈與す

一 會員外の出品には賞狀を贈與し賞品を贈與せざるものとす

東京市神田區美土代町貳丁目壹番地

大日本蠶絲會

●大日本蠶絲會品評會規則

第一章　總則

第一條　大日本蠶絲會品評會は評議員會の議決を以て隨時之を開設するものとす

第二條　品評會場並に出品の種類等は其時々之を定む

第三條　大日本蠶絲會々員たる者は何人にても出品することを得　但大日本蠶絲會々員外と雖も篤志者の出品は特に之を諾することあるべし

第四條　出品は總て出品人自家の產製に限るものとす

第五條　出品人は其品に關する圖書、物品等を參考品として出品することを得

第六條　出品は本會に於て成るべく丁寧に保護すと雖も非常の損害は其責に任ぜず

第七條　會場整頓、出品陳列等に關する一切の事務及費用は本會に於て負擔す

第八條　會場は公衆の入觀を諾す每日午前八時に開き午後四時に閉づ　但其開閉時限は時宜によりて伸縮することあるべし

第二章　出品

第七條　出品は品評會の費用を補ふ爲め總て本會へ寄附せらるゝものとす

第十條　出品は出品受入期限までには必ず到着する樣會場に宛て遞送せらるべし　但出品受入期限後に至りて到着したるものは審査を加へず

第十一條　出品運送費は總て出品人の自辨とす

第十二條　出品人は必ず一品限り左の書式に據り其出品の名稱、數量及住所氏名、會員の種屬等を詳記したる目錄を出すべし又成るべく其出品に關する由來、種類、風土、收量、飼養、製造、損益、

從來受賞の有無、發明等に係る解說を別紙に認めて添送せらるべし

第何回品評會出品目錄　　數量

一、物名及號名）

右出品致候也

府縣國市郡區町村

（大日本蠶絲會何會員或は會員外）

年　月　日　　氏　　名　印

大日本蠶絲會第何回品評會事務所宛

第三章　審査及褒賞

第十三條　出品は審査委員之を審査し其優等なるものには左の三等に區別し褒賞を贈與す

一等　盃

二等　同

三等　賞狀

第十四條　審査委員長及審査委員は本會に於て本會技藝委員若くは斯業に熟練なる者を選定して之に委囑す

第十五條　審査委員は每品其審査表を製し褒賞の等級を概按して審査委員長に出し審査委員長は本會幹事長と協議して褒賞の等級の定むるものとす

第十六條　審査委員は自己の出品を審査することを得ず

第十七條　會員外の出品には賞狀を與へ賞品を與へざるものとす

第十八條　一人數品を出すものにして二品以上優等の品評を得たるものあるときは其最優等の分に限り賞品を添ふるものとす

第十九條　出品に褒賞を附與したる後其審査に不服を唱へ又は再審査を請ひ或は褒賞を返還することを得ず

第二十條　前條に觸るゝ者は爾後品評會に出品することを許さず

大日本蠶絲會報第五拾壹號

●論說

●繭の形狀に就きて

大日本蠶絲會員　高橋信貞

本邦生絲に類を生ずる所以の原因に就きては世間種々の說を爲すものありと雖も概ね成繭以後の所說にして其根軸たるべき繭種に就きては敢て之を說くものあるを聞かず否偶之あるも之を實踐したる結果ありしを見ず

今や世界蠶絲國中蠶の種類數多なるべしと雖も之を要するに家蠶に屬するものは壓々數種に止まるべし只繭色の差へると繭形の同じからざるとに由りて其名稱を異にする耳均しく是家蠶なり偖其家蠶中形狀の一種異樣にして皷形即ち中央の緊縮せるものは獨り東洋我日本國の成繭あるのみ他に斯の如き形狀を具備せるものあるを見ず又固より聞きしこともあらざる也

本邦蠶業の盛なる現今より旺なるはなし然るに物盛なるときは弊害亦之に伴ふは古今の通患なり維新以來官民一致力を斯業の改善と增殖とに用ふる年あり其產額を增し其品位を進めたるの事實歷々徵すべきものありと雖も亦一種の弊害を增長し來れるの跡あり他なし大方の養蠶家及び蠶種製造家たるも

の概ね意を成繭以上に注がざる是なり加之ならず之が需要者たる生絲製造家は曾に時價の昂低に心神を奪はれ絲量の生絲の時價に相當するときは精と粗とに論なく十把一束之を購買して敢て前途を慮からざるもの多きに似たり

夫れ斯の如く養蠶、製種、製絲の三業者共に歳月を曠過し來りたるより繭形漸く不同となり或は大に或は小に錯雜混淆の甚しき今日より大なるはなし是此錯雜混淆の弊に就きては數年來先覺者の憂ふる所となり今や地として之が改善を唱へざるものなきに至れるを以て玆に喋々を要せずと雖も特に愛に大書して當業者の反省を惹起せんと欲するものあり繭形是なり

本邦の繭形は之を既往に徴するに年は一年に其形狀皷形となり行き中央甚しく縊れて恰も肥後國の米俵に類するもの多し偶角又、大草、鬼縮等の如き形狀宛も烏卵形に似たるものありと雖も又昔に小石丸に白玉に均白に銀白に其名同一にして異形なるものあるのみならず概ね中央緊縮せざるものあることなし是此緊縮せる部分こそ内外需要者の最も嫌忌せる類を生ずるの根原にして機織上茸毛を起し絹帛の品位を下劣ならしむる所以なり

試に事實を擧げて二三理由の存する所を左に示すべし

一一繭絲を數百個繰り解きて類の起る原因を探究せしに其部分は孰れも中央の緊縮せる個所に多し例せば一寸の長さある繭を採りて之を三分し三分三厘三毛づゝに區分して檢するときは上下の三分三厘三毛には類を見ること極めて稀れにして中部の三分三厘三毛に多きを見る是則本邦繭の中央緊縮せる部分に起類病の存ずる所以ならむ

二繰絲するに當り同一温度の湯中に繭を投入して之を煮沸し一百個の繭を同一に煮熟浸潤せしめんと欲するも之を均一ならしむるや難し殊に其繭の中央緊縮せる部分は上下の圓き部分と反し煮熟浸潤遲るゝを常とす故に此部分を十分浸潤せしめんとするときは上下の部分は煮熟に過ぐるの虞なきを免れず是則本邦繭の中央緊縮せる部分に起類病の存する所以ならむ

三蠶の繭を營むや烏卵形のものと皷形のものと其組織稍異なるを見る今其異なる點を擧ぐれば烏卵形のものは絲の懸け方 の如くなるもの多く皷形のものは の如くなるもの多し而して烏卵形のものは上中下共に其組織に差異なきが如くなるも皷形のものは上下と中央とに差異あり中央の緊縮せる部分は其組織較々緩にして不齊なるの傾きあり爲に煮熟の過不及は倏ち解舒に影響を及ぼし輪類を生ずるに至る是則本邦繭の中央緊縮せる部分に起類病の存する所以ならむ

事實既に是の如くなるのみならず纖維に於ても亦差異あり形狀烏卵形のものは内外產を問はず概ね其始め太くして次第に纖細となるを以て繰絲上纖度を揃へるに易し然るに形狀皷形のものは其始め細くして中程漸く太く又次第に細くなるを通例とす故に繰絲上纖度を揃へるに難し蓋し製絲の工業たるや第一の必要は纖度の均一にあり故に原料をして加工上に便益ならしむるに務むることこそ眞の改善なり況

や歐米二洲の需要地より苦情絶えざる輪類の殄滅を圖らむと欲せば是非とも此蔵形に眼を著け精好無類の原料を撰擇して之を一般に全國に普及せしめざれば伊佛及上海の精絲と衝を歐米の市場に爭ふこと能はずして終始低廉なる緯絲の供給國となり畢らむ耳洪嘆大息の極みならずや切に望む大方の蠶業家宜しく學理と實地とに由り刻下の最大急務なる之が改善に就き良案大策を畫せられむことを

◎桑樹モンパ病菌

大日本蠶絲會員　市川延次郎

此病菌に關する論文(英文)及圖畫は帝國大學記要第四卷第一編に掲げあり

植物學者の爲めに世の中に紹介された植物は凡そ十七萬種もある中に高等の部類に屬するものは根莖及葉ありて肥料を吸收し類化作用に依て無機物質を變化させ自ら滋養分を製造し終に花を開き實を結ぶ桑の如きは即ち其一例で日本國中野でも山でも其實を播き苗を植うれば生育せぬと云ふと無し又下等植物の中にも厥、青苔の如きは花こそ無けれ類化作用を營む故に其生育に要する滋養分の製造には少しも差支無し然るに斯の如く自ら滋養分を製造し能はず常に之を植物躰内にて類化された物質中より攝取すると丁度動物の食物に於ける工合と殆んど相似たるものあり此類の下等植物の總稱を菌類と云ふ其中にはマツダケ、サルノコシカケ、ハリタケ、チヂミタケ、キクラゲ、マヽダンゴ、ゴミガサタケ等蓋の裏に襉、孔、針あり或は莖のあるもの、無きもの、棒ばかりのもの、團子の如きもの等種々樣々の形狀ありて此等をば昔からキノコと云ひ來れり尙其類の中に算入せねばならぬものは黴類で何れも肉眼では其形狀をさへ明瞭に認るとを得ず菌類なる名稱は已に八九年以前に撰定したので即ち羅甸語のFungiに適用すべき文定無き儘單に菌の下へ類の字を加へたるのみ菌類の種類は隨分澤山あり諸外國で已に發見したる分のみでも四萬種近くにもなる我國產の分は七百種内外で新種の分も夥多あり桑樹に寄生する種類のみでも新種に屬するもの八種ありモンパ病菌の如きは即ち其一なり

明治廿二年十一月の頃モンパ病桑の標本を農科大學桑園にて夥多採集したり然るに其被害餘りに甚しく何れも病菌と患部組織との關係を明瞭に識認し難く而して病菌は未だ子實を結ばずして其菌の種名は申に及ばず所屬の類別をさへ知るに由なかりし、モンパ病々原に寄生病菌の所爲なりとは其以前より已に二三生物學及農學大家の所說なるが未だ確定種の病菌を指定したるにあらず只其患部に存在する絲狀躰は菌躰の一部にて成熟の秋至れば之よりマツダケ或はシヒタケの如き完全なる菌躰を形成すること恰も彼の杉檜等山林植物を害するスギダケ(新稱)の如くなるべしとの想像に止まり而して其想像自ら病菌の研究に着手以來凡そ六ヶ月後即ち明治廿三年四月に至り遂に其不當ならざることを證明し得たり然れども待ち設けたる菌躰の形狀は彼の豫察と符合せず全く普通菌とは似もつかぬ恰もウドン粉を平らたく煉りかためた如き不定形の塊こそ現はし出たり其形狀即ち左の如し

蓋は無柄下へ反り圓形又は長形にして多少中高に凹凸あり始め天鵞絨の如く膜質にして終に稍硬質に變ず其色紫褐色後に白鼠色を帶ぶ子實層は白色にして膽子囊は一方に彎曲し一乃至三境膜あり四個の

子實を生じ子柄長し子實倒卵形彎曲無色にして十乃至十二ミクロ、ミリミーター幅五乃至七ミクロ、ミリミーターあり

各の形狀に依て考ふるに此菌はヘリコペシヂウムと稱する屬に入るべきものなり此屬は至て小屬にして所屬のもの他に二種あるのみ而して彎曲膨子囊は所屬菌特有の形狀なりとす前記モンペ病菌及以上二種の全屬菌を互に比較するに蓋の形狀一膨子囊に生ずる子實の數等に差異あるにより容易に其種別を明らかにするを得べし尙異屬類似の種類にして桑樹に寄生するものステレウム、モリコラムラ、サブクルエンタアタム、及コントラリウムの三種ありと雖も不幸にして未だ其完全なる標本を得る能はず兎に角モンペ病菌は新種に相違なければ之にヘリコペシヂウム、モンペの學名を附し研究の當時已に之を公にせり

（以下續出）

●寄書

●人造絹の缺點を指摘して兼て蠶絲改良の注意を趣す

大日本蠶絲會員　橋本重兵衛

前年來歐米各國にて人造絹の發明に汲々たりしが其發明も未だ不充分にして火に近付くれば直ちに燒失すと云ふ然るに近頃佛蘭西人イレール、ド、シャルトチー伯の發明により好結果を得たりとて右發明を英國ランカシヤー地方の紡績業者共同して同伯に特約を爲しマンチスター市附近に一大工場を設立し內國用の絹織物又絹絲の需用に充てんと目下計畫中のよし

我國養蠶業者は言ふ迄もなく各國當業者間往々に該人造絹の發明に掛念し絹織物に如何なる恐慌を惹起する哉も難計と杞憂を抱く者少しとせず然れども該發明にして充分なる者とし價も非常に廉價なりとするも決して驚くに足らざるべし例之ば古來贋造物の大發明ありし二三の例を揭げて證とすべし第一十三世紀頃に於て贋金の發明あり當時各國之を以て大金鑛の發見より尙一層に重きを置きたり其當時純金の價一基に付三千五百法銀塊一基に付三百法なるに贋金は二千五百法の價ありて實に貴金有要のものなりしに今日は非常に下落したり即ち「アルミニュット」是なり第二「ダイヤモンド」の高貴なるより近頃人造「ダイヤモンド」を發明せるも此贋造「ダイヤモンド」は水晶にして裏面に純金を貼附しあり故に表面より見るときは決して光輝色澤一も眞物に讓らず其名稱を「トッパース」と云ふ然れども價格の如きは眞物の千分一にだも及ばず第三人造珊瑚珠の發明なり眞物と比較して容易に眞贋を判明する能はざる程の精工を極むと雖も其價格に至りては二十分の一に過ぎざるなり又少しく趣きは異なれども參考の爲めに云はんに歐米にて麻絲を以て製する所の「レース」にして裝飾物として用ひらるゝものは其原料僅に二十五仙の麻絲を以て充分に工職を加ふれば五百弗には賣行くものあり歐米の貴婦人社會には大要缺くべからざるものとなれり其價の比較的に高貴なる事は世界中何物も能く之に匹敵すべきものあらず斯は全く工手間の多少に依り貴賤あるなり然るに近來は專ら器械力を以て「レース」を製造するに其精巧なる事は到底人造の企及ぶ所にあらざるも器械製「レース」は其價格人造製より下る事千分の一に過ぎざるなり且又瓦斯博多織の如き一見眞贋辨じ難き程なるも奈何せん其價格に至り殆ど雲泥の差あり是何に依て然るか惟々人の嗜好如何に在るのみ

古來贋造物の發明枚擧に遑あらずされども是が爲め眞物を壓倒し去りしと云ふが如きは少なし人造絹

の如きも亦之と同樣にして或は一時流行を爲す事もあらん然れども是が爲め眞正蠶絲に及ぼず所の影響は敢て驚く程の事にはあらざるべし且つ既往に徵するも兎角龍頭蛇尾立消に畢るものは每度の例なれば此度とても縱し世界の稱道するが如き眞價ありとするも到底充分の手足を延ばすを得ずして倒るゝならんされども內國人にして此人造絹なるものゝ過當なる誇稱に驚き挫折するものなきにあらず故に今余輩が想像を述べ以て之が參考に資せんとす玆に今金と絹との高貴なる事を述ぶべし

黃金の貴きは僅かに一基の金塊を以てするも之を展延すれば一「ヱーガー」千二百二十四坪の地面に寸際なく廣げ得べしと云ふ夥多金屬中に如此廣大なる展延力を有するものは黃金を除くの外他に一もあるなし又絹の貴きは極薄の織物と爲すも其强き事他織物の及ぶ所にあらず極厚の織物と爲すも其資質を失はず絹絲となすときは細大自在を得るなり絹織物絹絲をなすに際し糊粉を塗入れるも些の光澤を失せず人造絹絲に於ては第一樹木の纖維を採り之を細末とし藥力を以て絲となしたるものなるにより强延力は最も薄弱なりと第二人造絹絲は植物性なり蠶絲は動物性なれば染色の結果は人造は遠く蠶絲に及ばず第三光澤は最初の內は鮮明なれども少しく使用せば忽ち退色すべし第四製造の際藥力を籍る故に自然燃燒質たるを免れずと云ふ近頃は燃燒質をば大に除去せしと云ふも到底蠶絲に企及し得べきものにはあらず第五樹木の纖維なるより耐久性に乏しく少しく使用せば忽ち切斷し始むべし又同一の絲を以て細大又は厚薄の品を製する事を得ず而して之に糊粉を使用せんとするも到底望みなきものなり

金屬にては黃金、絲又は織物となして使用するものゝ中にては蠶絲より高貴にして重寶なるもの恐らく他に比類を見ざるものとす然して我邦にては是等の幻影的發明に驚く事なく益ゝ進で蠶業を擴張し大に生絲の改良を爲さゝるべからず目下淸國器械改良生絲に凌駕せられつゝあれば一躍して其上に出る事を勉めざるべからず信州器械絲の如きは米國市場の信用を失し當今は絲絲として使用せらるゝに至る信州器械絲は些の改良をも計らず却て米入を欺瞞し一時橫濱の販賣に差閊なきより光澤を自になし粗製濫造に流れ遂に今日の不信用を惹起したるものなり但米國にて歐洲同樣の生絲調査を爲せば今日の如き絹織物商も失敗を來さず又信州器械製絲家とても大不幸に陷らざりしならんも生絲調査不充分なるより相互の損失をなしたるものなり

歐洲にて經撚絲となすに信用なき絲は繰返せし上二千「ヤード」の枠に揚げ一管每に量目を調査し量目に大差なきものを復た繰返して撚絲となすものなり故に粗製絲は經絲となるとを得ず

米國にての使用法は第一繰返し一萬「ヤード」となし二十管を合せて量目を調査し大差なきものを復た繰返して撚絲となす故に細大の差異あるも大器其量目の均一となるにより經絲となし來りしが其絹物織揚げの上にて非常なる劣等品の出來を見る故に今日にして改良を爲さゝれば信州器械絲は米國絹織物の緯絲に使用し去らるゝに終らん而已

又該國にて日本絲は黑色には極々不適當なりと云ふしつぶし多き爲めなりと右は繭を煮るに當り光澤を白色に爲さんが爲め少時間に煮上げしつぶし多きにも拘はらず光澤を白色に爲したるよりして黑色物には不適當の絲なりとの批評を得たるなりしつぶし多きは劣等絲となす今にして充分の改良を爲さゝれば米國の大得意を失ふに至らんと炳として火を睹るより瞭かなり

大日本蠶絲會員　田島武平

●蠶種產附分量沿革

爰に我邦蠶種產附分量の沿革を調査するに往古養蠶事業創起年代の事實は推知するを得ざるも今より凡そ百年以前文化年度の頃よりの沿革を述べんに其頃の種紙即ち原紙の寸法は縱橫共に當今のものと大差あらざるが其原紙一枚に二百三四十頭(蛾の大小により一枚の分量二三十頭の差あり成繭二石を得るもの)前後の蛾をして產卵せしむるに其年の氣候製種の時期炎熱甚しきときは其一枚の蛾蛾二三十頭斃死するを見る隨て數層の卵子は多く脫落するあり又縱令附着せし卵子と雖も虛弱性となるありて

翌年飼育の蟻蠶に其害を顯はすを認知せり下りて文政より天保年間に至りては其一枚附の蛾數を二枚の原紙に分載して產卵を試むに果して其蛾の混雜せざる故か如何なる炎暑に遭ふも斃死するものなく卵粒脫落の患ひを免がれ翌年飼育の蟻蠶健康なること明瞭せしより一般の製種家の注目する所となり甲は本歩一枚据附に置かんと云ひ乙は則ち薄附半枚の製造を欲し此爭論決着せずして終に訴訟となれり即ち一枚附の主張者原告にて半附は被告たりしなり然るに其裁許たるや各〻自由に製造し以て營業を爲すべしとの事にて落着を告げたり（今に此事を指して蠶種半附出入と唱ふ）之に依りて全國製種は更に半附となり營業を爲し來れり是れ本歩一枚、五分半枚の名稱ある所以なり又其五分附と唱ふる半枚を二枚の紙に產附せしめたるもの則ち二分五厘附あり此二分五厘附を發明せし福島縣伊達郡掛田村の川城屋佐藤久之助（其頃有名の製種家今は絕家せるか）なるもの蛾の交尾せしを人爲を以て引離するを患ひ自然番のまゝ原紙に移し其自ら離るゝに隨ひ雄蛾を去りて雌蛾の產卵を爲さしむ而して其番蛾は六十を載するものにして即ち原紙一枚の卵子たる六十蛾の分量なり是れ其頃の五分五厘附にして現今の五分附なり（此製種法は天然製造の極度とす）又明治十年頃政府は更に本歩五分の名稱を廢し紙一枚を以て一枚と改稱せられたり（當時一枚蛾數百二三十頭產卵せしむるもの）又當時七分附と唱ふるもの一枚を二枚の紙に製すれば原紙を費すを厭ひ現今二枚當時本歩一枚分量の蛾をして原紙三枚に載せ蛾數凡そ八九十頭前後を載せて產卵せしものを單に七分附と唱ふ其の六分六厘六毛附是れなり斯の如く沿革ありて往古より一枚、半枚、本歩、五分或は本歩一枚を四紙に製する等蟻卵の爲めに種々研究練磨を凝らして歩附蠶種を製造し連年其薄附に最も効能あるを知り自然養蠶家より五分、七分の薄附製造の注文多きよりして止むを得ず漸々歩附蠶種を製造し營業を爲すに至れり而して其賣買代價の如き素より卵子の分量に定度のあるありて例へば一枚の蠶種金一圓なれば五分、七分は其割合に取引を爲すの慣例にして歩合薄附蠶種と雖も僅かに紙代幷に手數料の金員を收むるのみにして歩附に關せず紙數平均の價格を以て賣買取引を爲し來りしものにあらず古來蠶種產附分量沿革の要たる概ね此の如し

●統計

◎二十九年七月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計（大日本外國貿易月表に據る）

種目	數量	元價	收稅
生絲	四八、六〇四斤	三四八、五八四・三四〇円	一一、四八二・七四〇円
貶絲	八三、二一八斤	七八、四一四・〇〇〇	一、九六六・〇四〇
引絲	一四三、四三一斤	六六、二二六・四三〇	一、〇一六・五七五
屑絲	二七五、二五三斤	四九三、二二四・七七〇	一四、四六五・三五五
計			

◎二十九年七月中絹布類輸出數量元價統計（同上）

種目	數量	元價
縮緬	一五二反	一、二七九・三〇〇円
羽二重	二七、八三三反	四三〇、〇〇一・〇二〇
他の諸絹布類	一、〇八七反	九、七〇七・六〇〇

絹綿布類	七四反	一二六・七〇〇
絹布手巾	二〇五、八一〇打	五四二、一七六・六八〇
絹製品類	二九、一四六反	七四、四六三・一四〇
計	二〇五、八一〇打	一、〇五七、七五四・四四〇

◎二十九年一月より七月に至る生絲の海外賣込及內國積出統計

本年横濱港生絲市場に於ける海外賣込の如何に不振にして內國積出の如何に昌盛なりしかは左表の示す所に就て之を知るべし

本年	海外賣込の部	地方積出の部
一月	三、〇七五俵	一、〇二二俵
同 二月	五、三八三	一、七二一
同 三月	二、五三一	一、四一二
同 四月	五、三三四	二、六三八
同 五月	三、一〇八	二、〇四六
同 六月	一、三三一	二、八二〇
同 七月	二九二	一、九八六
合計	二一、〇五四	一三、六四五

（大日本蠶絲會員　松田小吉氏寄稿）

◎新潟縣西頸城郡蠶業進歩一覽表

年次	養蠶戶數	掃立枚數	收穫高	全代價	蠶種一枚收穫	一戶飼育枚數	全上石數	壹戶收入金	一斗代價
明治十二	五一〇戶	一三〇枚	六二、一〇〇石	四一六、七〇円	〇、四七七石	〇、二五〇枚	〇、一二〇石	〇、八〇〇円	〇、六七〇円
仝 十三	四九三	一一二	五一、三〇〇	三四八、八四	〇、四五八	〇、二二七	〇、一〇四	〇、七〇八	〇、六八〇
仝 十四	五〇三	一四〇	五〇、二九〇	三三六、九四	〇、三五九	〇、二七八	〇、一〇〇	〇、七〇〇	〇、六七〇
仝 十五	五二〇	一三一	五八、一〇〇	三九五、〇八	〇、四四三	〇、二五九	〇、一一五	〇、七八三	〇、六八〇
仝 十六	五八〇	一四五	五二、二五〇	三六一、〇〇	〇、三六〇	〇、二五〇	〇、〇九〇	〇、六二二	〇、六九〇
仝 十七	七三〇	一六二	六三、四〇〇	四二六、五〇	〇、三九一	〇、二二〇	〇、〇八六	〇、五八四	〇、六七〇
仝 十八	七五〇	一五五	六八、七〇〇	四三四、九〇	〇、四四三	〇、二一〇	〇、九一六	〇、六二六	〇、六八〇
仝 十九	七二〇	一二六	五六、〇〇〇	三九一、七〇	〇、四四四	〇、一八〇	〇、七七七	〇、五四四	〇、七〇〇
仝 二十	一、六〇七	八九三	三九四、九九〇	四七三九、八八	〇、四四三	〇、五五〇	二、四五〇	二、九四九	一、二〇〇
仝 廿一	二、〇六八	一、〇四九	四一七、〇四七	五六三〇、一三	〇、三九七	〇、五一〇	二、〇〇七	二、七二二	一、三五〇
仝 廿二	一、九七三	八八一	六三六、〇〇六	一五、二二五、九七	〇、七二二	〇、四四六	三、二二〇	七、七一六	二、三九〇
仝 廿三	二、〇八四	九〇三	四四七、一三二	六、五〇二、〇四	〇、四九五	〇、四三〇	〇、二一四	三、一二一	一、四六〇
仝 廿四	二、一五三	九四二	四四六、六二〇	六、六〇〇、七〇	〇、四七四	〇、四四〇	〇、二〇八	三、〇六六	一、四八〇
仝 廿五	一、八八六	九〇五	二八八、四九二	五、七〇〇、〇〇	〇、三一六	〇、四八〇	〇、一五三	三、〇二二	一、九八〇
仝 廿六	一、八五〇	九八四	四〇五、二二八	一〇、四七一、〇九	〇、四一二	〇、五三〇	〇、二一九	五、四三〇	二、四八〇
仝 廿七	二、一三八	一、九〇九	四九二、二六七	九、八五八、七六	〇、二五八	〇、八九〇	〇、二三〇	四、六一〇	二、〇〇〇
仝 廿八	二、六一九	一、五二二	八八七、六〇三	二一、三四〇、五二	〇、五八三	〇、五八〇	〇、三三九	八、一四八	二、四〇三
仝 廿九	二、五〇五	一、六五一	一、〇二一、八七六	二二、四七一、〇六	〇、六一八	〇、六九〇	〇、四〇七	八、九七〇	二、一九九

問答

●蠶蛆の害に就て質問

大日本蠶絲會員　黒澤貞吉

我が神川村神流川邊りの村落にありては土質は眞土に火打石交りの土地なるが太古より蛆害にて困難の場所なり余が六箇年の研究に依れば同一の又昔種を三眠迄は同樣の飼育を爲し三眠起よりは飼育を二派に爲して同室同棚に並べ置き同所の桑を用ゐたるに其結果を異にせり即ち

一は蛆害八分　蛾二分　　一は蛆害一分　蛾九分

右は如何なる理由なるや明示せられんことを乞ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員　理學博士佐々木忠二郎

又昔種を三眠迄は同樣の飼育を爲し三眠起よりは飼育を二派に爲して同室同棚に並べ置き同所の桑を用ゐたるに蛆害八分と蛆害一分との差を生じたる理由如何を質問せられたるに在り右に就きて案ずるに質問者は三眠前と三眠後とは飼育の方法を異にせられたると言はるゝの意ならんかなれども質問の文意に依れば同樣に飼育せられたる者の樣に見え別に差異のある所を見ず但し三眠後同樣の蠶兒を同室同棚に於て同所の桑葉を給與し蛆害の多寡を生ずるは別に怪むべき事に非ず一區域の桑園たりとも其位置方向の少しく異りたる所に依り蠶蛆の蠅は其卵を產付くるに多寡あるものなり故に偶然蠅卵の多く付きたる桑葉を蠶兒に與ふれば蛆害多く又偶然蠅卵の僅に付きたる桑葉を蠶兒に與ふれば蛆害少なきものなり是に由て之を觀れば三眠後蠶兒を二樣に飼育したる結果として甲は蛆害少なく乙は蛆害多くなるものに非ず單に蠅卵の多く付きたる桑葉と少しく付きたる桑葉を偶然別々に給與したる事に原きたるものと信ず

●蠶具洗滌に付質問

大日本蠶絲會員　安原蠶司

蠶具一切に附屬する微粒子其他種々蠶病の遺毒に鹽化石灰水を用ゐて盡く消滅せしむるの効ありや併せて鹽化石灰水の溶解量を問ふ

答

大日本蠶絲技藝委員　練木喜三

消毒の効あり溶解量の割合は去る明治十九年の試驗の結果に據れば水五升に付鹽化石灰三十五匁にて足れり

●蠶室構造法質問

大日本蠶絲會員　清水善

問口六間奥行二間半位にして二階作り蠶室構造法の尤も完全なるもの詳細に教示を乞ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員　木村九藏

凡蠶室は蠶兒の飼育に備ふるものなれば其構造の如何に依りては養蠶の豐凶に大なる關係あるは言を俟たざるとにして只其要は蠶兒の健康に適する樣注意するに外ならず即ち其構造たる風雨霜露は勿論冷温暑熱等を巧みに避け加之空氣の流通を適好ならしめ適當の温度を室内に整ふるが爲め火力を利用するとあるも炭酸瓦斯或は蒸熱窒閉の患ひなく即ち其外氣に對する用意と内部に要する働きと終始相

俟て完全に室内氣候の作爲をなし得らるゝを要す此故に其位置及構造に就て主とする所は氣候の關係に應ずべき備へを爲し變動を來すの外氣は豫め避け得べく且つ空氣の側壓或は上散自在にして其新陳代謝宜しく蠶兒の衛生に適する樣構造すべきなり今質問に對する蠶室は間口六間奥行二間半位の二階作りにして完全なる構造法云々とあり惟ふに其二階作りと爲さんより寧ろ平家作りの便且つ適するに如くとなきは經驗上確く信ずる所なり然れども其主旨に依り之が揭酌を加へ構造の大略を摘述せんに何れも内廊下を加へ間口六間〇五寸奥行三間五尺（間取りは木間を柱を除きたる計算法也）高さ一丈九尺七寸の二階作り瓦葺（藁及小麥殼葺とするも木法により妻支なし）と見做し二室連續上下四室に區劃し各室其二間半四面と定め左に其概要を記し以て參考に供し尚左に説明する所あらんとす

抑蠶室建設に就き第一注意すべきは其位置なりとす即ち其地の風度乾濕四隣障害物の現況等能く調査を遂ぐるにあらざれば容易に判すべきものにあらず然れども今假りに正午より己へ三四分觸れて以て室の方向を定む地盤は平面より凡一尺高に盛り上げ内二寸は可成「タヽキ」「コンクレート」にて堅め水分の滯滯を避け常に濕氣の過剩を豫防するを良とす

室の構造は内廊下東方三尺西方三尺五寸を隔て其外面及戸袋内部を土壁とし南北亦四尺を去りて戸障子を箝む元來東西北の内廊下は幅三尺にて可なるも建前の高きと及二階昇降の便を考へ且つ夕陽照射の過剰を避け玆に揭酌を加へたり床下は地幅下端より床板まで二尺にして周圍は勿論室堺及板壁と共に土壁と爲す其南北土壁に當る處は口徑四寸長四尺八寸其他は全四寸の錢葉製氣管を通じ快晴にして暑熱甚しと豫想する時は早朝より之れを開放して以て床下空氣の交代及其清涼を促す

床下は床板上より二階板に至る高さ八尺とす南北廊下の左右には東西對面に開戸四箇を設け其廊下堺に障子を引くと亦四ヶ所此障子は開き置くを常とすれども氣候の寒冷に際し保温を要し或は暑熱を防がんが爲め開き戸を明け清涼を促すに當り之れが開閉を加減し以て外氣感觸の急劇を避けるに用ゆ東西廊下と育場との間は板壁を以て界し室内東西對面に蠶架を立て幅三尺二寸長三尺七寸五分の蠶簡を配置す蠶架の兩側亦幅三尺七寸五分の板壁を設け其下部に四寸の腰欄間を置く板壁と板壁との中間七尺五寸の個所は南北共障子を引く之れを半壁半口と云ふ其南北板壁及各障子鴨居上は欄間を設け兩室間は障子を以て界を分つ南北板壁及障子は總て五尺八寸にして欄間は南北外側及廊下界障子上各八寸同廊下内板壁及障子上八寸三分室界障子上一尺四寸五分とす又室の中央には三尺四面の空所を設け蓋を爲し以て床下に火鉢を入るゝの便となす此火鉢を利用して床下を乾燥ならしむ其兩側南北各五寸を隔てゝ幅三尺長四尺五寸の火爐を設け其中央に近き三尺方面を埋火の個所とし餘の一尺五寸を空所と爲す該空所には灰の陷ちざる樣小高き境を設け其埋火の箇所は上に厚板の蓋を爲し剩餘空所上は格子を箝め以て其間隙より火氣の上散するに供す而して二階に於ては便宜火鉢二個宛を置き不時に備ふるものとす

二階高さ亦八尺にして其構造大略下と等し今就中異なる點を摘記ずれば室の中央即ち扱場は板張と爲す板壁内部は小間返しとし其上に蠶架を立つ又鴨居及板壁の支け幾分を減縮し隨て上欄間を大にす即ち南北外側及廊下堺障子上を一尺其廊下内板壁及障子上各一尺四寸と爲せり

三階は廊下通りを板張とし育場上は悉く小間返しと爲す是れ何れも厚七分幅二寸の貫子にて二寸透し

に張りたるものなり以上は常に疎（二本乃至三本線の繩にて）一重を布き置き寒冷の夜に當りては重ねて二枚とし温暖の日に向ては復た一重と爲し或は扱場上中央を剝ぎ去る等其重剝に注意して氣候作爲を行ふ尤も三眠後に於て温度の維持し得らるゝ限りは蠶架上を除くの外之れを剝ぎ去ると多し小間返し天井より桁上に至る高さは一尺七寸にして中央板塲通り南北桁下一尺の欄間を設け以て三階を明晰ならしめ且つ暑熱の際取外し以て清涼を求むるに備ふ又二階及三階梁は何れも蠶架に接近し空氣流通上障害を釀すの恐なきにあらざれば可成六寸以内のものに限るべし若し建築上八寸を要する如き塲合は不得止二寸をば小間返し上に出し下六寸以内に止むる樣尤注意すべきなり

屋上は毎室其中央に高窓各一箇を築き以て排氣に備ふ其間口五尺奥行四尺（内法）東西兩面土壁にして南北は開閉戸を設く該戸は唐板にして之れに細繩を附し其天井中央なる釣塚に掛け曳いて室内に垂る之れを張弛して開閉自由なり其丈け一尺五寸開閉戸の下に荷蹴込板を設く其丈け八寸是れ亦開閉自在なり是等を開閉して室内氣候の作爲に供し專ら腐陳の氣を排出せしむ屋根勾配或は斬塲の出の如きは勿論貸方等に依り異るべきも極端をして其天井と水平に至らしむるを標準とし以て其適度を計り可成下り過ぎざる樣注意するを要す尙詳細の點は容易に盡し得べき所にあらず玆に喇か其概要を示すに過ぎざれは能く要旨を酌み深く留意推究せられんとを望む

編者曰く木村氏は此答案に添付するに第一號より第六號に至る詳細なる圖面六葉を以てせられたれども奈何せん紙數に限りあるを以て姑く之が掲載を見合せ重裝して事務所に保存せり

●外報

●里昂蠶絲並伊佛養蠶景況

里昂蠶絲並に伊佛養蠶景況に附き里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より本年六月十三日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

當地蠶絲商況は前報告後玆に凡そ一閲月の間時々小浮沈を呈したるに止り目下市場靜穩にして尙ほ未だ活氣を示すに至らず本年支那に於ける蠶繭收獲不作なりとの說は今週當市場に到達せる電報に因りて彌々確實に歸したる所なるが其影響は單に少しく絲價を進むると同時に少しく取引を促したるまでにして例年新繭取引開始の際往々實見するが如き活氣を惹起すに至らざりし今や既に當國にありては新繭取引開始の際なるにも拘はらず依然として絲況の振興せざるものは蠶絲の消費者たる織屋が戒愼以て猶豫策を執り進んで買入を爲さゝるが故なり其然る所以を索むるに新絲原價の豫算未だ一定せざるは即ち其理由の存する所なりと雖も米國需要の依然として振はざると共に純絹布稍ゝ流行の愛顧を失し毛織布之れに代らんとするの萌芽あるが如きは亦た其一理由と認むべきものなり而して本年冬期に於ける婦人服用織布の流行は絹布を去りて羅紗に移らんとするものゝ如し又婦人服裁縫の如き玆に二箇年間の流行は衣服の上下に異樣の絹布を用ひ袖は專ら純羽二重製の袋形なりしかば絹布の用途も從て廣濶なりしが流行頓に變じて上下とも同樣の毛織布を用ひ天鵞絨を附飾

したる衣服に移らんとするの傾向あり劬ち來春期の流行は織地粗渺なる毛織布に歸し純羽二重の如きは主ち裏地用に供するに過ぎざるべしとの說あるを以て織屋は絹布の前途を慮り原料蠶絲の仕入に戒愼を加ふること一層甚しきに至りたるものあるが如し

流行の傾向前陳の如くなるは蠶絲將來の趨勢に關し大に熟考を要する所なり此の如き流行の變遷は蠶絲消費の增減に直接至大の關係を有すべきものなれば我當業者に於ても宜しく蠶絲需要の增減に注意し是れが供給の度合を加減するは實に肝要なることゝ信ず假令流行の傾向前陳の如くならずして純絹布の流行は依然として繼續すべしとするも一方に在りては前季歐洲に於ける絹布の製產に過剩を告げ一方に在りては米國商況の回復頗る困難なるあり此二箇の事實に就きて試みに將來を卜するも昨年に於けるが如く蠶絲多額の消費は到底來季に望むべからざるが如し況んや流行は絹布を去りて毛織布に移らんとするの傾向あるに於ておや此傾向に對しては特に我當業者の注意を惹かんと欲する所なり

前文陳ぶる所は今日まで見聞したる狀況に就き觀察したる蠶絲大體の趨勢にして固より商況時々の變動は玆に之を豫告すること能はず向後豫想外の事實起り爲めに今日の觀察を變更せざるを得ざることあらんには必らず報道を怠らず讀者の參考に資する所あるべし

本月五日より十一日に至る一週間當地蠶絲檢査所に於ける蠶絲登記高十一萬七百六十四基此捆數千六百七十五箇の內本邦蠶絲の分を別記すれば左の如し

經絲 六二貫	緯絲 六二貫	生絲 三一八貫

當週間生絲の相場を列擧すれば左の如し

佛「セウェンヌ」	一等 11/13	四三法	同	二番 11/13	三六法
同	二等 10/12	四一法	同	二番半 3/15	三二法乃至三三法半
「ブルーー」	一等 10/12 11/12	三九法乃至四〇法	虛絲		三三法
同	一等 12/16 15/22	三八法乃至三九法	廣東機械絲	9/11	三二法乃至三二法半
同	二等 10/12 11/13	三八法乃至三八法半	同	二等 10/12	三〇法
同	二等 12/16 16/22	三七法乃至三八法	同	三等 5/15	二五法半
「シリー」	一等 9/10	三六法乃至三六法半	同	三等 16/20	二四法
伊太利	一等 8/9	四三法乃至四三法半	支那七里絲	四番 4/5	二六法半
同	二等 10/11	四〇法	同	五番の上	二四法半乃至二五法
日本機械絲	一番半 9/11	三九法	同	五番	二二法乃至二三法

本月十日當地共同倉庫に於ける蠶絲存在高の內譯を示せば左の如し

日本	九〇四貫	孟加拉	六〇〇貫
支那	六七七	歐洲	三二〇
廣東	八六〇		

佛國の蠶蠶は目下一般終了に接せり繭の收獲高の如きは未だ之れを確知するに由なしと雖も各養蠶地方の報道に據れば中には蠶病の害を被りたる地方ありしも今日までの所全體の結果先づ好況の方

にして收獲は少なくも昨年と同額なるが如し今各地に於ける新繭取引開始の相場を摘記すれば左の如し

ガール縣	二法七十五仙	ウォークリューズ縣	二法三十仙乃至二法四十仙
ドローム縣	二法五十仙		

但し右は孰も豫約相場にして一定の市價にはあらざれば結局本年新繭の價は目下の生絲に比し其上に出づるとも其下に降るが如きことはなかるべしと云ふ

伊國本年の養蠶成績も亦未だ確知するに由なしと雖も同國の報道に據れば目下一般四眠期を經過し上簇に達せり中には蠶病流行の地方あり天候も亦不順なりしにも拘らず概するに好結果の望ありと尤も南方カラーブル州北方ピエモンツ州の如きは桑葉に霜害ありしを以て收獲大に減少を告ぐべしと雖も其他ロンバルジ、ウェニシー、フリテール、チロールの諸州及中央諸州は之に反し豐作の見込なり要するに本年伊國全體の收獲は昨年に比し幾何か減少を示すならんとの說あり

同國に於ける新繭取引開始の相場は品種に因り差等あれども今日までの所其最昂は三「リール」二五にして最低は二「リール」五五なり

西班牙國本年の收獲は昨年より一層多額なるべしとの見込なり同國タランス市場に於ける撰擇繭の最終相場なりとて傳ふる所に據れば三「ペセター」三〇乃至三「ペセター」四〇までに達せりシリーの收獲も亦昨年より遙かに多額なる見込なり新繭「一オック」に附き一六弗（ピヤストル）乃至一八弗の相場を以て取引中なりと傳ふ聞く所に據れば新絲一基の代價三十五法を以て當地より注文を發送せしものありしが彼地の當業者は之に應ぜざりし由是れ指定の代價にては收支相償はざるがためなるべしと云ふ

ブルース國に於けるも亦本年養蠶の進行頗る順當にして昨年より多額の收獲を得べしと云ふ

◎廣東生絲商況

本年六、七兩月中廣東に於ける生絲商況に附き在香港帝國領事館事務代理領事官補清水精三郎氏より八月五日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

本年六、七兩月間廣東市場新絲の景況を視察するに生絲の價格は春來追々下落の餘勢を受け之を前年の價格に比すれば新絲發賣の當初に於て既に機械絲一擔に附き二三十弗前後の相違あり加之前年に於ては六、七月より十月に渉り追々上進したりしに本年は六月より七月に掛け漸く下落の傾向を現せり然れども六、七兩月間賣買出來高を以て之を昨年の同期間に比するに凡そ三千三百俵の增加にて目下荷主の景況は現今の廉價を厭はず陸續賣拔けんとするものゝ如しと云ふ六月以降去月まで毎二週間の市況概ね左の如し

六月十六日に終る二週間

七里絲（Rereal）　市況は活潑と云ふに至らざれども孟買向相應の需要あり倫敦向も百俵の出來高あり

翻活絲　稍々上景氣にて里昂向の買入多く出來高少からず然れども荷主賣急ぎのため價格の昂進を妨げたるのみならず週末に至りては一擔に附き十弗乃至十二弗半を引下げ賣放ちたる者あり

機械絲　尙ほ此上の直引にても手放さんとする賣手少からざる摸樣なりし

屑絲　前々週まで些少の需要ありたるも此二週間殆ど買手出でず價格二三分方下落せり

七月一日に終る二週間

七里絲　倫敦向凡そ七百俵の出來あり

翻活絲　當期間絶て取引なきも其呼直には高低なし

機械絲　價格は一擔に附き十弗乃至十五弗の下落にて相應の需要あり其出來高も少からず

屑絲　不振價格下向なり

七月十五日に終る二週間

七里絲、翻活絲　共に市況振はず

機械絲　景氣宜しく其出來高少からず

屑絲　不振且つ價格も下向の傾向なり

七月二十九日に終る二週間

七里絲　歐洲向は皆無の有樣なれども孟買向は引續き相應の賣口あり

翻活絲　米國向頻に買進り手打出來せず

機械絲　全體の形況は不活潑の傾向殊に週末に於て然り

左に右相場表及出來高表を掲げて參考に供す

六、七兩月間七里絲及機械絲相場表（毎擔）

	七里絲一番	同二番	同三番	同四番	同四番半	同五番
六月十六日	四四五	四三〇	四一五	四〇五	四〇〇	三九〇
七月一日	四四五	四三〇	四一五	四〇五	四〇〇	三九〇
同十五日	四三〇	四一五	四〇〇	三九〇	三八五	三七五
同二十九日	四三〇	四一五	四〇〇	三九〇	三八〇	三七〇

	機械絲一番	同上 13/15	同二番 9/11	同上 10/12	同上 13/15	同三番 11/18	同上 13/15
六月十六日	六〇五	六〇五	六一〇	五八五	五六〇	四八〇	四八〇
	五九五	五九五			五七〇	四六〇	四六〇
七月一日	六〇〇	六〇〇	五九〇	五七〇	五五〇	四五〇	四七〇
	五九〇	五九〇			五六〇	四七〇	四五〇
同十五日	六〇〇	六〇〇	五九〇	五七〇	五五〇	四七〇	四七〇
	五九〇	五九〇			四六〇	四六〇	四六〇
同二十九日	五九〇	五九〇	五九〇	五八〇	五六〇	四八〇	四八〇
	五八〇	五八〇				四六〇	四六〇

六、七兩月中每二週間賣買出來高一覽表

	水年六月十六日まで	同日より七月一日まで	同日より十五日まで	同日より二十九日まで	計
歐洲向（後）	二、〇〇〇	一、七〇〇	二、六〇〇	一、〇〇〇	七、三〇〇
米國向（い）	一〇〇	一〇〇	五〇	五〇〇	三〇〇
孟買向（い）（擔）	一八〇	一七〇	二七〇	二〇〇	七二〇
	一一〇	六〇	一四〇	一五〇	三六〇
總計（後）（擔）					八、三二〇
					三六〇
	前年六月十六日まで	同日より七月一日まで	同日より十五日まで	同日より二十九日まで	計
歐洲向（後）	一、二〇〇	一、二〇〇	五〇〇	三〇〇	三、二〇〇

米國向（ドル）	四〇〇	六〇〇	一五〇	二〇〇　一、三五〇
孟買向（ルピー）	一二〇	一五〇	八〇	一二〇　四七〇
	一七〇	六〇	五〇	一〇〇　二八〇
總計（俵）				一五、〇二〇
差引增（俵）				二、二八〇
				一三、三〇〇

◎西班牙國蠶業近況

西班牙國に於ける蠶業近況に附き里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より本年七月四日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり

西班牙國蠶業の起源は遠く亞則比亞回教軍侵略の頃に在り爾來蠶業は西國の最も重要なる一富源と爲り一時該國は蠶業國として歐洲に首位を占め本世紀の半頃に當りては毎年生絲の產額二千萬基を超過するの勢なり

然るに千八百五十五年より千八百六十年に至るの間蠶病全國に蔓延し斯業の被害甚大なりしかば桑樹栽培の如き亦頓に之を放棄するの慘狀を呈するに至りたり獨りヴァランス及ミュルシ州に於ける若干の當業者は右の困難に遭遇するも敢て屈せず依然桑樹の栽培に從事し努て斯業の回復を謀りたる結果として昨千八百九十五年に於ては百廿萬基の收繭ありて七萬基の生絲產額を見るとを得たり今日に於ては同國の東部及南東部即ちヴァランス、ミュルシ、アンダルーシー及アラゴン諸州に於ても蠶業を營むに至れり然れども他に卓越して最も發達を示したるはヴァランス州なりとす昨年同州の收繭額は四十萬基にして實に全國產額の三分の一を占めたり同州に次ぐはミュルシとすカタロヌ及パレアル州の如きは斯業殆ど全廢に屬せりと雖も要するに西國に於ては近時大に蠶業に心を傾くるの趨向あり且つヴァランス及ミュルシ州の產出繭は其質善良にして好評を博する所なれば斯業は往時の如く有利の事業たるに復するものなるが如し新規の飼育法は各地概ね之を應用せり其飼育に供する蠶種は主として佛國ヴァル縣產のものなり而して「パストール」操導法の如きは一般に之を應用せり

◎清國杭州の蠶業

清國杭州の事情に附き在同地帝國領事館事務代理領事官補落合謙太郎氏より本年六月十三日附を以て外務省へ報告中同地の蠶業に關する項あり左に抄錄す

杭州地方に於ける物產は絹絲織物を以て最とす浙當地方即ち杭州、湖州、嘉興の三府は清國中第一等の養蠶地にして居民率ね養蠶を業とし到處桑園ならざるなし蠶は毎年五月末に漸次繭と爲り六月に至り生絲と爲る其絹織物は蘇州と共に清國中亦有名のものにして蘇州と當地とは各〻巧拙長短ありと雖も當地方は生絲の品質精良なるため概して價格昂貴なるが如し當地方に於て織出す絹物は繻子、寧綢、紗、紡紬、羅、羅紡、摹本緞子、線縐等の種類とす其中繻子、紡紬、羅等は當地の最も長ずる所にして毎年貢獻するもの少からずと云ふ現今當城內に在る綢緞莊（絹物問屋）は大小大約百六十餘家あり一年の產額は一千四五百萬兩ありと云へり是等問屋は各出入の織機職工を有し織絲を頒付して織製せしむるあり又は職工に於て織絲を自辨し織成の後問屋に賣捌くものあり故に當城內の民戶は機織を業とせるもの多く到處に繰絲の音擲梭の聲を聞く凡機織業者は當城に於て三四千戶織機は一萬數千臺あるべし現今用ふる所の機臺は孰も舊式にして紋繻子を織るには必ず三名の職人を要し寧綢には二人を用ひ無地ものにして始めて一人にて織ることを得是等職工の一日の織高は寧

綢、紗、羅等は大約清尺一丈、繻子に至りては七八尺に過ぎずと云ふ織物價格は毎尺を以て定むるものと目方を以て定むるものと二種あり繻子寧綢等は尺を以て論じ品位に依り各〻差違ありと雖も一尺に附き約そ銀一兩より以下洋銀五六十仙までとす線縐等は目方にして重量一兩に附き約そ五十仙許とす

生絲は前述の如く當府及湖州嘉興の諸府にて產出するのみならず寧波紹興府等孰も多額の產出あり當地方に於て產出する毎年の數量は是亦其確數を知るに由なしと雖も平年にて五六萬掴ありと云ふ當地には生絲問屋三十餘軒あり其他各地方各鎭市共該問屋の開設せざる所なし其相場は未だ今年新絲の景況に附き正確の報道を得ず然れども當地に於ける絹物織絲は常に相場あり現今の相場は重量一兩に附き銅錢二百四五十文なり又細絲は重量百兩に附き洋銀二十八九弗とす

昨年中杭州より上海へ輸出せる貨物の數量は左の如し

野蠶絲	七〇〇斤	繭	殼	五九、〇五五斤	屑	繭	七、三九五斤
繭	六三〇	—	屑	絲	八〇、九九六	—	

以上の外當地附近に於ける各地方より上海へ輸出せる貨物の數量を揭ぐれば大略左の如し

貨名	紹興より	湖州より	嘉興より	海甯より
繭（斤）	九六三、二〇九	五四、六一二	—	—
繭殼（〃）	三九、九九七	一、八〇五	—	—
屑絲（〃）	二一、〇一七	六四三、六七三	四四、四〇〇	六〇、五〇〇
屑繭（〃）	繭（〃）	二四、三六六	八四、六八五	一〇、四〇〇	三、六五〇
鷹塊絲（〃）	—	二九三、二八六	—	八、九〇〇

當府に於て從來用ふる所の度量衡は種々あれども織物類に用ふる尺度を裁尺と云ふ此尺は英尺に比すれば約そ一尺に附き長きこと一寸一分なり又居民の用ふる秤は皆十六兩を一斤と爲せり此秤は本邦と大差なし而して現今各處養蠶地に於て繭を量る秤は一種特別のものを用ひ其重量は約そ十六兩八匁を一斤と爲せりと云ふ

又土地の賣買は其實際を知る能はずと雖も今回居留地と爲りたる拱宸橋外の地所賣買價格を清國政府に於て告示を以て一定せしものは（中略）桑園一畝に附き六十弗と爲せり

當地に於ける工作及人夫等の賃銀は殆ど一定の例規あり（中略）又當地各處に散在せる織工は別に賃錢の例規あり例へば清尺二尺二寸幅の摸樣寧綢を織るに織物問屋より織房へ織絲を渡し之を請負はしむれば一尺の織賃は銅錢八十二文とす又織工に於て自ら織成するに梭を執て織る者一尺に附き銅錢十九文許（二尺四寸幅なれば三十四文とす）花引き一丈に附き銅錢百十四文（二尺四寸幅なれば一尺二十一文）其外織絲を枠に卷く者一把の卷賃銅錢五十文（此重量約そ三兩許）とす若し二尺二寸幅摸樣緞子なれば之を請負ふに一尺に附き銅錢百文餘とす之を織るに單に機に從事する者三人を要す織る者一尺に附き銅錢二十六文花引き同十六文其他一人は一日の賃錢百文許とす故に一日の賃錢として之を明示するを得ずと雖も寧綢は一日に一丈餘を織り緞子は七八尺を織ると云ふ

當地の開港場と爲りたるより當地方人は頻に之が準備を爲し隨ひて新事業を興す者少からず昨秋以

來撰宸橋に浩ひたる上流西岸に於て當地の有力者丁、龐等首と爲り資本金約そ三十萬圓を以て世經繰絲廠と稱する製絲場を建設せり該場には約そ二百餘箇の釜を備附け近日落成の期なるを以て直に開業すべし

雜報

●昨今兩年に於ける絲價

本年は新絲以來別に顯著なる取引なく殊に絲價も當業者の見込みとは大なる反對にて新絲の出來直も廉く頃日に至り幾分か引立ちしが如くなれども昨年の今日と本年の今日とを較ぶれば信州、器械上州座繰等の上に於ては殆んど二百弗に近き相違あり即ち昨年は信州器械の價大抵九百弗より九百十弗位を往來し居りたるに本年は七百十弗乃至七百四十弗位にて其差の多き驚くべき程の事なるが扨爲替相場に就ては如何と云ふに昨年は八月より九月に渉りて米國參着五十二弗四分の一なり而して本年は五十一弗八分の五なれば其間僅かに八分の七にして八十七錢五厘の差あるに過ぎざるに絲價に於ては前記の如く二百弗近くの相違を爲し居れり試に昨年の相場を金貨に換算すれば九百弗と見るも四百六十一圓二十五仙にて今年は七百四十弗とするも三百八十二圓なれば本年の絲價は比較上低廉なる事明かなりされば一朝米國に於ける景氣の回復したちんには無論今日の相場よりは騰貴を來すべきは疑ひ無き事なりとて各荷主中には隨分强氣連も多きよし

●生絲檢査上外商の要望

横濱生絲檢査所の開始以來日々生絲檢査の出願者ありて其成績頗る宜しく將來益す隆盛の運に向ふべき景況にて外商も大に檢査を喜ぶ色あれども何分正式の檢査を受くるは手數多き事なれば略式を用ゐて一部の檢査即ち見本檢査を施されん事を要望する向きも往々之あり現に横神兩檢査所とも其請求を容れ其施しゝ項目丈けの保證を爲しつゝあり而して其一部丈けの檢査は即ち其丈けの効力を有するや勿論なるべし然るに或る新聞紙上誤りを傳ふるものあるを以て玆に記しぬ

●各地方の秋蠶彙報

東京府下南北西の三多摩郡に於ける秋蠶は春蠶の遲作と正反對の結果を呈し春秋平均して平年の八分に達する收繭なるを以て蠶業者の景氣頗る宜しく斯く秋蠶の良好なるは土用中より氣候の適順なりしと春蠶遲作の結果として桑葉に養分あるとに原因するよし

群馬縣下群馬、多野、郡中の農家は殆んど概則に多少の秋蠶飼養せざるは無く是まで蠶杯は手にも觸れぬ者が今年は皆飼養する如き有樣となり而して飼育中の氣候は秋蠶に適せる者と見えて其發育尤も善く飼育者等の言に據れば近年無比の好況なりとて喜れも非常に喜び居るよし

長野縣下松本地方の秋蠶は最初遲作の摸樣なりしが中頃よりして景氣稍立直りたるも收獲は僅少なりきされど繭の品位に至りては解舒宜しく量目も相應にありて存外の好結果を呈し其取引相場は一貫目に就て三圓五十錢より極上等品四圓以外なり及上田地方の秋蠶繭も好結果と迄は行かざるも先づ七八分作の收穫ありしよしにて過日來專ら賣買中なる趣其相場は新物出廻り時に比し横濱生絲市場の靜穩なるより稍低落を來し目下一貫目に附き優等三圓八十錢、上物三圓五六十錢、並物三圓三四十錢にて

取引あり

山梨縣下の秋蠶繭は近頃景氣大に引立ち其取引相場は三圓五十錢より四圓位迄の間なりといふ

神奈川縣下相州鎌倉、藤澤、平塚最寄りの秋蠶繭相場は初期の取引に比すれば大に低落せしよしにて目今一斗八升に附き上物四圓六七十錢並物四圓二三十錢見當の賣買なりとぞ

靜岡縣下の秋蠶は多少遲速の差ありといへども全管を通じて之を言へば九月中旬に於て三眠前後のもの多し而して其發育は雨天續きの爲め概して不揃にして好結果を望み難し然れども獨り磐田郡の東部に在りては景況至りて佳良なりと云ふ

熊本縣菊池郡は秋蠶發生後屢次阿蘇山の靈降りて而も五中齡に至り最も甚だしく桑葉に降り積り飼育者は頗る憂慮したれども其成繭は意外に好成績を現はして近年稀なる好果を收めたり是れ其飼育中格別炎暑なかりしと桑葉柔軟なるとは其主因なるべけれども飼育者の次第に經驗を積みたるも亦與かりて功あるならんと云へり而して蠶種の掃立は六百五十枚なりしが收繭は五百八十石位にして掃立に對する九分の割合に當れりとぞ

●横濱生絲問屋の苦慮　輓近横濱に於ける生絲相場は七百二三十弗より八百弗位迄なれば平年に比して強ち低廉なりと云ふべきにあらざれども地方荷主より入荷甚だ少く中等以下の問屋の如きは昨年に於ける半分程の入荷も無く閑散無事に苦しみ居る委なるが何故に斯く入荷少きかと云ふに本年は地方機業盛んなるが爲め生絲は地廻り非常の景氣にて横濱へ送り出し問屋の手にかけ日歩四錢運賃等を費し賣拂ふよりは地方にて賣拂ふ方餘程の利益を見るを以て大抵は横濱への送り出しを見合せ居る者多きに因れりされば今後横濱の相場昇騰するにあらざるよりは地方よりして多額の入荷は到底望むべからず隨て昨年地方荷主の横濱問屋に對する負債等は返辨を爲すもの無きが爲め各問屋就中等以下の問屋にありては獨り營業上の損失のみならず貸金すらも收むる能はざるを以て非常に苦慮し居るもの多しと云ふ

●人造絹絲製造所の擴張　佛人シャルドンテー氏發明の人造絹絲は逐次改良を加へ漸く實用に適するに至りたるを以て英國にても株式會社を設けて一大製造所を起すことゝなりたる由は本會報第四十九號の雜報欄内に記載せるが其製出する所の人造絹絲には Asilka てふ商標を附するよし而して同會社の發起人にして其創業に最も盡力せる英國絹物製造業者ホルゾウォース氏は米合衆國にも亦人造絹絲製造所を起さんとて己自ら渡航し專ら計畫しつゝありと云ふ

●人造絹絲に就て時事子の意見　人造絹絲の事は別項にも記載せるが時事新報は去る十日及び十一日の社説に左の二篇を掲出せり一讀に値ひするを以て左に之を轉載し讀者諸君に紹介す

人造絹絲掛念するに足らず（十日社説）　人造絹絲の發明談は近年來屢ば耳にする所なりしが此程佛國にてはいよ〳〵功を奏して天然同樣の絲を製するに至りしと云ふ元來人造絲は其質脆くして久しきに堪へざれども光澤其他の外觀に於ては毫も天然絲に異ならず唯特に欠點として認む可きは火に近けて燃え易き一事にして最も苦心したる所なりしに今回は全く之を防ぐの工風を得ていよ〳〵完全の域に達し然かも其價は極めて廉にして本絲に比して素より同日の談にならず或は其質の脆弱なるは尙ほ欠點として難ず可きが如くなれども本來西洋諸國にて絹物の衣服は上流社會の贅澤に外ならず然

かも其流行は日を逐ふて移り少なからざる金を費したるものも一二回着用すれば忽ち不用に歸するの常にして時樣の新裝たゝその外觀の美を貴ぶのみ地質の强靭如何は素より問はざるの風なれば此一事は毫も欠點として認む可らず既に英國にては右の專賣特許權を買收して盛に製造に着手するの計畫ありと云ふに就ては昨今我國人の中には大に掛念するもの少なからず日本の生絲は殆んど唯一の產物として頼む所のものなるに今、人工にて全く同樣の絲を製出して然かも價は非常に廉なりと云ふ之に對して競爭は到底思ひも寄らざる次第なれば今より覺悟する所なかる可らずとて遽に落膽して或は大早計にも養蠶製絲の新計畫を思止まり甚しきは既墾の桑畑を潰して水田に變ず可しなど頗に狼狽の沙汰もあるよしなれども我輩の所見は全く之に反して人造絹絲の成功は毫も掛念するに足らざるのみか其成功いよ〳〵慥にしていよ〳〵實用に供せらるゝに至るときは寧ろます〳〵天然絲の眞價を現はし其需用を廣からしむるの結果必然なりとして却て之を祝するものなり其次第を語らんに絹物の光澤麗はしくして手障り滑に衣服として着心の愉快なるは實際に天下の絶品と稱す可きものなれども今の砡澤社會にて之を珍重するは其美麗輕暖の愉快を悅ぶと同時に又その裏面の內實には絹と名くる品物の容易に得がたくして價の高きが爲めに外ならず即ち富豪の人々が絹を着るは取りも直さず黃金を着て自から滿足するものにして苟も人間に贅澤心のあらん限り衣服に絹の需用は決して止むるを得ず人工に成りて價の安く然かも多々ます〳〵辨ずる如きものは一般社會の必要品としては兎も角も到底上流社會の一顧をも値すると雖しと知る可し例へば金剛石の摸造の如き頗る精巧を極め一見殆んど眞僞を區別す可らずして價は勿論非常の相違あり若しも單に赫灼たる光

を輝かして他に誇らんとならば摸造品にて差支なきとなれども實際には矢張り眞物を貴重するに非ずや又彼の金時計の如き近來の製造は本金と鍍金と外見の相違を見ず眺れを所持するも可なるが如くなれども鍍金は兎角擦尽せられて紳士の手に觸るゝを得ず又我國婦人の櫛笄に用ふる鼈甲の色には自から淡濃の別あり然るに近年人造の鼈甲を發明したる其鼈甲は水色にして全く本物と同樣なるにぞ婦人の社會にては人造品と間違へらるゝことを嫌ひ水色のものは次第に不向と爲りて稍や濃色を帶びたるものゝ流行を見るに至りしと云ふ左れば絹物の如きも人造に如何に精巧の物を出すも恰も鍍金の時計、摸造の金剛石鼈甲と同樣にして到底上流社會の受顧を得ざるのみか一般に其人造品を用ふるもの多きに至るときは贅澤家はます〳〵本場を貴重して錢を愛しまざるに至る可し然かのみならず中以下の輩にして從來絹物の價高かりしが爲めに之を用ふるを得ず常に遺憾に思ひ居たるものが人造品を得て始めて輕暖の眼を解するときは所謂望蜀の念を起して終に本物を買ふに至るなど人造絹絲の流行はいよ〳〵以て天然絲の眞價を現はすのみならず之が爲めに却て其需用を廣くするの結果ある可し人間の贅澤心進歩の順序として疑ふ可らざる所なり之を要するに絹物の珍重さるゝは其物の少なくして價の貴きに在り人造品の如き多々ます〳〵辨じて然かも廉價なるものは如何に精巧の物を出すも決して人間の贅澤心を滿足せしむるに足らず而して絹の產地は世界にも甚だ多からずして日本特有の產物なる其產物の得意先は滿世界の人々にして今日の有樣を見れはます〳〵富有を增し贅澤に赴くの一方のみなりと云ふ我絹絲の前途はます〳〵多望にして毫も掛念す可きものを見ず人造絹絲の發明の如き寧ろ其望を多々ならしむのみなれば我國人たるものは無益の心配を止

めにし大に安心してます／／蠶絲の業に勵む可きものなり

人造絲と天然絲（十一日社說）　人造絲の掛念するに足らざるは既に述べたるが如し明白の道理にして我輩の萬々保證する所なれども世間或は尙ほ杞憂を止むる能はずして贅澤の人情、品物の少れにして價の高きものを好むは勿論なれども今、人造絲の絹物は甚だ麗はしうして普通の眼力にては天然絲と毫も區別を見ずと云ふ衣服の贅澤は外觀の美を悅ぶが爲めに外ならざるに双方共に其外觀に相違なしとあれば如何に贅澤のものにても殊更らに無益の錢を費して本物を買ふ人はなかる可し人造絲の流行は必然にして天然絲は遂に壓倒せらる可しとの考を爲すものもある可し一應尤もなるが如しと雖も未だ人心の眞相を知らざるの說と云はざるを得ず人間の贅澤心は甚だ微妙にして容易に滿足せず一見物の眞僞を區別する能はざる場合には專門の技術家に托して鑑定せしむるの法あり彼の書畫もしくは刀劍の類の如き何頃の時代にて何某の作りなどと云へども僞物甚だ多くして容易に識別するよ能はざるのみか實際には僞物の方に出來の好きもの少なからず單に美を好むの一點よりすれば僞物を愛するも差支なき筈なれども人情決して之に滿足せず必ず其眞僞を辨ぜんが爲め鑑定家に依賴して始めて安心するの常なり從來織物の如きは別に眞僞の紛らはしきものもなきが故に銘々の取捨に任せて差支を見ざりしとなれども若しも實際に見分け難きものありしならんには書畫刀劍に等しく必ず專門の鑑定家を生じたることならん人造の絹物にして果して天然と同樣の物を製出して雙方の區別に苦しむときは同時に專門の鑑定家を生ずるは必然の成行にして其眼力に由て始めて天然人造の相違を認定するが如き場合ともならば絹物の値はます／／現はれます／／珍重せられて

上流社會の婦人などは尚ほ絹の本物を着るに非ざれば仲間に齡せられざるにも至る可し例へば派出を讀ふ貴婦人の會合などにては先づ互に衣服に着目するの常なるに或は凡眼にては容易に見分け難きを便とし人造の絹物を着て他の中に混じ揚々自得の最中、誤て衣服の端を焦し其臭氣に由て僞物なるを發見せらるゝが如きこともあらんには其當人の不面目は此上なき次第にして再び他に合する顏はある可らず絹物の眞價は人造絲を得てます／／現はるゝものと知る可し

右の鑑定云々は極端の場合を想像したるものなれども尚ほ人間に贅澤心のあらん限り假令ひ外見は同一の美を呈するも品物の多くして價の廉なるものは到底上流社會の愛顧を得べからず人造絲の發明の爲めにます／／絹物の價を現はし其需用を廣からしむるの成行は人心の眞相に照らして萬々疑なき所なれば我國の蠶絲家たるものは安心その業に從事して差支なきものなり

◎出殼繭の內地需用　近來絹紡績業の盛大に赴くに準じて內地の出殼繭は新町、京都兩紡績會社の爭ひ買ふ所となり殊に本年の如きは紡績絲前途に好望を供し居るより一層競買の度を進め新出殼繭は內地にて殆んど買ひ盡くす程の活況を呈しぬされば輸出向きは此人氣に壓せられ縱令商館にて買氣あるも到底相場折合はざれば橫濱へ出荷するもの自ら稀なるに至れり聞く所に據れば目下賣手は十七掛以上を唱ふるにも拘はらず買手は十三掛の安直を呼ぶが如き有樣なれば過般入荷せし茂木商店の同繭は遂に新町へ百四十四匁の相場にて會社賣りを爲せりと曩に三井組が支那にて出殼繭を六百圓許り買込みたりとの說ありしが是れ或は內地の需用を見越して先鞭を着けたるにはあらざるか又橫濱二百九番館へも先日上海より出殼繭を輸入し來れる由にて買人に應ずるやに云ふなど屑物中輸出の呼物

と云はれし同品が海外より輸入せらるゝに至りしは一變象にあらずやと語り合へるものあり

◎桑皮綿製造の好況　大坂府西成郡北野村の藤井龍吉氏が百方工夫を凝し七八年の辛苦を積みたる末遂に桑皮より綿を製造することを發明し昨年十一月に至り成功せしかば其專賣特許を受けたる由は前號の紙上に記載せるが各府縣の有志者は此事を傳へ聞きて續々同氏に書を寄せ織出しの方法又は工場の設立等に就て謀る所ありしとの事なるが聞く所に據れば桑皮綿二分に米國綿八分を混じて製出したる絲を以て織上げたるものは宛も八丈紬の如く絲質に光澤あり彈力も亦强くして其結果良好なりとぞ

◎生絲商館の閉店と開店　横濱居留地八十九番館メリヤン商館は生絲及び屑物の輸出品を始め輸入品をも取扱ひ隨分手廣く營業を爲し居りしに近來失敗を重ねて遂に八月三十一日を以て斷然閉店し諸器械は勿論家具其他の品に至るまで悉皆競賣に附し從來久しく屈入れたる本邦人幷に支那人には向ふ十ヶ月間の給料を附與して解雇せるが是迄清國上海に在りて生絲業に從事せる佛國人タレントモッター氏は今度我横濱に移住し右のメリヤン商館の跡を借受けて十月一日頃より生絲業を開始する筈にて目下其準備中なりと云ふ

◎神戸蠶絲取引所に對する告發　一株金二十五圓三千五百株に分ち資本金七萬五千圓と爲して本年四月頃農商務大臣より發起を認可され次で遞なく設立免許を得て今や既に會社の成立を告げ第一回一株に付金六圓二十五錢宛の拂込みを終り一株の賣買價格金二十七八圓に沸騰するの盛況を現はしたる神戸蠶絲取引所の發起人は將さに開業を見んとする今日に於て去月廿五日突然告發せらるゝ事とはなれり告發者は神戸市兵庫湊町栗本又四郎氏にして之が代理人神戸組合辯護士山田鎌七氏は告發狀の提出を爲せしが告發の要旨と云ふを聞くに取引所を設立せんと欲せば明治二十六年三月法律第五號取引所法を遵守せざるべからず而して取引所法第三章に於ては取引所の會員株主及仲買人と爲り得べき者の資格を規定し又明治二十六年七月農商務省令第十三號取引所法施行規則第四條に於ては左の如き明文あり

取引所設立發起人の人員は賣買取引せんとする物件の各種類毎に十五人以上たるべし

發起人は賣買取引せんとする物件の各種類に對し人員の二分一以上は其種類の營業者にして會員組織の取引所に於ては會員又は仲買人株式會社組織の取引所に於ては仲買人たる資格を有する者たるべし

此明文に據れば取引所設立發起人は十五名中の半數は是非とも仲買人たる資格なるべからず而して仲買人たるの資格は取引所法第十條に

二ヶ年以上其の取引所の營業部類に屬する商業に從事したる商人にして年齡二十五歲以上の者は政府の免許を受け其の取引所の仲買人たることを得

とあり然るに神戸蠶絲取引所の發起人十五名中に二箇年以上は勿論實際に於て蠶絲業に從事したる者は殆んど皆無なるに拘はらず設立認可の出願書には十名まで二箇年以上蠶絲業に從事したりと爲し立派に履歷書を添付したるは正に是れ職業を詐稱し法規を潛らんと巧みたるものにして刑法第二百三十一條官署に對し文書又は言語を以て其族籍身分氏名年齡職業を詐稱したる者は二圓以上三十圓以下の

罰金に處すとの罪を犯したる者とす又神戸市長は此職業詐稱の情を知りつゝも不實の認證を與へ官を欺きて以てその取引所設立の免許を得せしめたる者なれば是れ亦詐稱罪構成の連座者たるを免かるべからず依て審理の上其罪を正し同時に神戸蠶絲取引所の解散を命ぜられたしと云ふにありと又た告發されたる發起人十五名の姓名は左の如し

小曾根 喜一郎　神田 兵右衛門　植木 政之助　小曾根 喜平次
藤田 松太郎　大前 範次郎　杉山 利介　戸田 忠主
柴田 保造　田村 宗作　美馬 幸吉　川上 平介
川上 研逸郎　萬良 熊太郎　喜多 甚七

而して此告訴は神戸地方裁判所檢事正の手に於て調査中なるが告發者は萬一起訴の手續に及び難しとの事に決せば大阪控訴院檢事局に向て更に起訴するの準備を整へ居ると云ふ因に記す告發者栗本氏は告發當時神戸四品取引所の書記たりし而して告發以後四品取引所員中種々の議を唱ふる者ありて氏は其の職を辭するに至れるなりと

◎神奈川縣下の桑園害蟲　神奈川縣下都筑郡及び愛甲郡の各村落に於ては桑葉切採り後發芽の期に方り降雨多く爲めに桑園に蛆蟲發生し桑樹の發芽を蝕害せり依て縣廳に於ては之が驅除の方法を示し官民力を協せて豫防上專ら注意を怠たらざりしが追々蔓延の兆を呈し甚だしきは一村桑樹の半を蝕害し或は數十町歩の桑樹を悉く枯死せしめたりと云ふ

◎清國に於ける蠶業奬勵　近時江西巡撫德壽なる者の奏文に江西の省城に湖桑を植え養蠶絲絲の家屋を建て寡友を延き蠶師を招き學生を募り以て養蠶の事に從ふ而して之を統ぶるに一局を設け以て江西各地に養蠶の盛行を期す省中の人萬中傑今春已に浙江の湖州に赴きて桑苗十數萬株を購ひ到り之を無代價にて人民に分與し加之蠶桑輯要全書、種桑秧管便法及び種桑事宜養蠶良法等の書を刊刻して世に頒てり云々とありしと

◎製絲工女の違約を訴ふ　信州諏訪の製絲家は年々工女の不足に窮し其雇入に就ては互に非常の競爭を試むる事にして本年も春季に在りて諸方へ手代を派して雇入を豫約し小額ならぬ豫約金を渡したるが其後絲況次第に不味を呈して各製絲家は孰れも資本の運轉を缺き加ふるに繭價の割合に不廉なりしが爲めに之を買入れて繰製するも絲況に對すれば到底利益を見る能はざるの有樣に陷りしかば閉場したる製絲家は少からず然らざるも曾釜數を減じ雇入を豫約したる工女の如きも最初に渡したる豫約金を乘てゝ解約するに至りたり然るに八月中旬頃よりして絲況幾分か氣を持ちて將來好望を示せる者の如くなりしかば各製絲家は大に之に勢を得て一旦蓋ふたる釜も再び開きて盛んに營業せんと欲し遽に豫約工女を召集せんとせりされども工女は今日は最早夫々方向を變じて本年繞るべき事業を他に定め其召集に應ぜざる者多かりしかば製絲家は大に困窮し某製絲家の如きは伊那地方に於ける是等工女に對し契約履行の訴へを伊那區裁判所へ提出し其被告と爲りし者同區裁判所管内に於て既に數十名の多きに達したりとの事なり

◎朝鮮國人の蠶業談　朝鮮國の貴紳金應元氏は同國京城桂洞官邸に住める小川實氏を伴ふて過般來長野縣下の蠶絲業を視察しつゝあり或る人一日氏等を長野町の旅館に訪ひ談偶朝鮮國に於ける蠶

業の事に渉りたるに氏等は語りて曰く日本より朝鮮に赴き蠶業を持込まんと欲するものは先づ能く朝鮮の内狀を考へて然る後ち之に適する樣にせざるべからず曾て當長野縣下より來りし百瀬龜作氏の如きは朝鮮上流の人に持ち込みて政府向きより之を行はしめんと企てたるが官の命令若くは干渉を藉りて行はんとするは朝鮮に對しては極めて不得策にして到底行はれ得べきにあらず而して百瀬氏は主として桑樹の栽培を勸告せるものゝ如くなるが蠶業の全躰極めて幼稚なるにつき單に桑樹の栽培のみを說きたりとて夫で宜しと云ふ譯には行かざるなり元來朝鮮人の性資として目前利を見ざれば仕事を爲さゝるに付蠶業を勸むるにも先づ利益より示さゝるべからず故に官府に持ち込まんより現に蠶業を行ひつゝあるものに對し桑の栽培なり蠶兒の飼育法なり若くは生絲の製法なりを敎え其利益あることを話せば彼等は始めて之に從ふべし併し利益ありとの話しのみにては尙不安心に思ふ者もあらんにつき最初は其出來たる繭なり絲なり朝鮮相場よりは之を高値に買ふて其利益ある事實を示す位にせざれば急劇の進步は得て望むべからず斯く云はゞ朝鮮に蠶業を敎ゆるは困難なるに似たれども其實然らず前陳の如く韓民は目前の利益を得るに汲々たるが故に目の前に大金が見えて居さへすれば必ず擧つて此業に從ふべし又現今朝鮮の蠶業は極て幼稚にて製絲法などは知らず彼の朝鮮紬と稱する有名の織物も繭を潰して直に絲を挽き出したるものを用ゐて織るが如き有樣にて絲の如きも横濱相場にて日本絲が七百弗以上する時漸く百五六十弗位なるに付之を買取ても商賣上相の無きのみならず甚分面白き商法と爲るべし是れ生絲に仕上げて後の話なるが其以前即ち繭の中に買入れても亦之と異らざるべし要するに朝鮮人の性質を見拔きて之に應じ目前に儲かるやうに敎えて知らず〳〵の間に蠶業に引き込むに若かず將來朝鮮に對して蠶業を持ち込まんと欲するものは此邊に留意すること深きを專一とす云々

◎蜘蛛網の絹絲

佛國の理學者某は今より二世紀以前に於て蜘蛛を利用して一種の絹絲を製出せんと企てたることあり、又先頃は南米に於ける某舞踏會にて其主婦は蜘蛛網製の絹布を纏ひ居たりとの說あり、爾來蜘蛛網絹絲は久しく學者間の問題となり佛國ボノ氏の如きは蜘蛛網より製出せる絹布を理科大學に提供するに至りたるが此頃ローメル氏の之に對する試驗成績なりと云ふを聞くに一封度の絹絲を得るには二千三百四匹の蠶を要し一匹の蠶の繰出する絲量は十二匹の蜘蛛の繰出する網絲に等しければ一封度の蜘蛛網を得るには二萬七千六百四十八匹の蜘蛛を要すべく而して其蜘蛛の繰出する網絲にも種類五千の纖維あり且つ雄蜘蛛は網絲を繰出せざるものなりとのことなれば要するに蠶二千三百四匹の產出即ち一封度の絹絲を得るには五萬五千二百九十六匹の蜘蛛を養成せざるべからずされば蜘蛛絲は到底蠶絲に及ばざるものなるべしとは近刊の米國絹物雜誌に載する所の新說なり

◎蠶種檢査の不合格

福島縣下伊達郡梁川町の青木清三郎、坂本巖五郎、土屋忠太同郡桑折町の菊田塲藏同郡伏黑村の佐藤元次郎など云へる人々其製造せる蠶種を賣捌かん爲め宮城縣に入込みしも同縣にては蠶種檢査規則の設けありて濫に賣捌くこと能はず故に此程縣廳內の肉眼檢査所に於て第一第二の兩期に代ふる檢査を受け其翌日仙臺蠶種檢査所に至りて更に第三期の檢査期を受けしに不合格のもの多かりし爲め右の人々檢査員の處置に不滿を抱きて檢査員と一塲の激論を爲したる末遂に縣廳に出頭して勝間田知事に面談を求めしかば毛利屬代つて應接し懇諭の上退廳せしめたりとぞ扨々厄介なる事と謂ふべし

◎北海道蠶業傳習所の卒業式　北海道空知郡瀧川兵村農會蠶業傳習所は去月二十八日午後第二時より同村北小學校に於て卒業證書授與式を擧行せり卒業生は十一名にして席定まるや農會々頭大隊長佐藤當可氏より證書授與の告辭ありて夫より證書を授與し續きて伊吹道廳農商課長の演說農事組合長三澤忠之亟氏堀口正己氏等の祝詞生徒總代西田松太郎氏の答辭あり式終りて立食の饗應ありしといふ又札幌蠶業傳習所にては同月三十一日午前第十一時より生徒の卒業證書授與式を行ひたるが當日鈴木道廳書記官は農商課員を率ひて式場に臨み書記官自ら各生徒に卒業證書を授與し終りて告辭を朗讀し次に堀技手、末松事業主の演說其他の祝辭ありて最後に卒業生總代植松長吉氏答辭を讀み右にて式全終り夫より別室に於て茶菓の饗應ありしよし當日の卒業生徒は二十四名にして鈴木書記官の告辭は左の如し

札幌蠶業傳習所第八回卒業證書授與の式を擧げ卒業者二十四名を出すことを得たるは本官の最も欣喜に堪へざる所なり願ふに諸子が今日の光榮を得たるは日夜風勉の勞と教師の示導其宜きを得たるとに因らずんばあらず諸子將來力を蠶業に盡し以て本所新設立の主旨を全くせんことを期すべし今や本道の蠶業は稍盛に向ふの緒を發けり是時に當り益之が發達を圖りて旺盛の域に進せしめんとするは實に諸子が經營奮力の如何に關し其負ふ所の任や重く且大なりと謂はざる可らず諸子須く奮勵從事能く其責任を盡し其光榮を全くすべし一言以て告ぐと云ふ

明治二十九年八月三十一日　　内務部長　鈴木米三郎

◎東京生絲取引所の認可　小池作一郎氏外十四名の發起を以て豫て出願中の東京生絲取引所は過日農商務大臣より認可ありたり同取引所は認可の上は東京商品取引所と最初より合併するの目的なりしを以て不日臨時總會を開きて合併の事を協議する由而して生絲取引所は資本金七萬圓として出願せるものなれども愈よ商品取引所に合併するに於ては一萬圓乃至二萬圓の增資を爲すに止まり其摸樣の權利は總べて生絲の發起に與ふる事となるべしと云ふ

◎三重縣下製絲場の損害　先日來の暴風又は洪水にて各地方の製絲場が損害を被りたる事は固より尠からずといへども三重縣下の如きは其害尤も甚だしくして各製絲場は概ね倒潰せざるは無し就中損害の大なるは三重縣坂部の三井製絲場にして横七間長四十二間の繭置場倒潰したる爲め繭は悉く泥に塗れて用を爲さず此金額五六萬圓にして建物を合せ七萬圓以上の損害なるべし次に津市の關西製絲會社は工場全滅諸器械大半破壞したる爲め一ヶ月間休業することゝなりて工女は皆歸散せり鈴鹿郡久間田の製絲場も亦全潰れにて諸器械は悉皆廢物に歸せり員辨郡野尻村の宮本製絲場は蒸汽機械五十人取の家屋倒潰して機械大破せり阿山郡東海製絲會社は繭倉庫（七十五坪）絲繰場、機械場、釜場、養蠶場等一切倒潰して繭百石は浸水し二十石は泥に混じて綿の如くになれり名賀郡依那古村の製絲會社も亦全潰れとなれり斯の如く各絲製場に於て風害を被りしこと甚だしきは是れ往の少きと空氣拔きの多きが爲めなるべし

◎高山製絲業者の休業　岐阜縣下飛驒國大野郡高山町の製絲業者は毎年十一月乃至十二月まで就業し來れる例なるが本年は一般に繭の不作と絲價下落の爲め到底收支相償はずとて一旦買入れたる繭を賣りたるものあり又は繭の買入れに躊躇せし向き多かりしを以て近頃絲況稍や活潑の摸樣を現はせしにも拘はらず休業するもの相踵き高山町にて村田半六第一工場、永昌社等を始め過半は去月限りにて休業したるよし

◎實業教育費補助　實業教育費國庫補助法に依り山梨縣東八代郡立山梨蠶業學校の學則並に授業料規則を認可し開校の月より向ふ五箇年間一箇年金五百圓づゝ下付し又同法に依り石川縣金澤市蠶絲業組合立養蠶簡易學校の學則を認可し開校の月より向ふ五箇年間一箇年金八百圓づゝ下付の旨此程文部大臣より夫々指令せられたり

◎横濱生絲檢査所生絲檢査調　横濱生絲檢査所に於て八月二十四日より九月十一日に至る間に檢査せる生絲は左の如し

月日	請求器械	産地	製産者	檢査項目	請求人
八月廿四日	器械一箇	信州	純水館	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、	純水館代仲度澤
同廿五日	同一同	有明社	中伊奈組	同	小野
同	同一同	中伊奈組	同	同	同
同	同一同	對嶺館	同	同	同
同	同一同	高明社	同	同	同
同	同一同	新榮館	同	同	同
同	同一美濃	伊藤繁次郎	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度、練減	蔑	木
同	坐繰四	上州	磯米社	同	原
同廿六日	器械一括	信州	……	繊度	百九十八番
同	同一箇	堺製絲株式會社	泉州	繊度、糸節、強力、仲度	堺製絲代蔑木
同	同一同	堺製絲株式會社	泉州	繊度、糸節、強力、仲度	堺製絲代蔑木
同	同一同	穴木種吉	同	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、	若尾
同	同一同	若尾一箇	泉州	同	同
同	同一同	甲州	穴木種吉	同	同
同	同一同	信州	雨角榮一郎	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度、練減	同
同廿七日	同一江	州	吉川伊助	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度	蔑木
同	同一同	杉谷製絲場	同	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度、練減	同
同	同一組	州	合資會社岩出製絲場	同	同

月日	請求器械	産地	製産者	檢査項目	請求人
八月廿七日	器械一個	信州	城南館	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度	小野
同	同一同	長信社	同	同	同
同	同一勢	州	田中管吉	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度、練減	蔑木
同	同一信	州	片倉組	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度	小野
同	同一同	純水館	同	同	蔑木
同	同一同	同	同	同	同
同	同一甲	州	穴木種吉	同	者尾
同廿九日	坐繰一器械	上州	勝山善三郎	同	勝山代蔑木
同	同	水沼製絲場	同	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度、練減	横濱生絲
同	同一括	魔水社	同	原量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度	岡島忠助代杉
同	信州五本	同伸社株式會	同	再繰、繊度	同伸
同	同五	同	同	同	同
同	同五	同	同	同	同
同三十日	同一個	甲州	秋山政藤	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度、練減	秋山代花尾
同	陸前	岩淵良太夫	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度	岩淵代水村	
九月一日	器械一個	美濃	伊藤繁次郎	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度、練減	蔑木
同	同	伊勢	高岡製絲場	同	神榮
同	同	信州	今井源三郎	同	今井代若尾
同	同	社	續益合資會	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度	蔑木
同	同	越後	笠原久世	同	原
同	同二日	下總	渡邊彦七	同	蔑木
同	同	越後	中島增次郎	同	同
同	同	柳澤彌七	同	同	同
同	同	信州	純水館	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度、練減	渡澤
同	同三日	信州	三金社	原量、正量、再繰、繊度、糸節、強力、仲度	小野
同	蔑繰一個	福島	福島共同生絲荷造所	同	安西
同	同	岩代福島合名會社	立生絲荷造	同	同
同	同	福島共同生絲荷造所	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	岩代福島合名會社	立生絲荷造	同	同

請求月日	請求人	産地	製産者	検査項目	請求人
九月四日	一個	座繰器械	信州	濱中三郎	原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、	滝澤
同		同	羽前	小山田英太郎	同	小山田代原
同	一括	同	丹後	丹後共同社	再繰、繊度、類節、強力、伸度、	渡部
同		同	武州	和田製絲場	同	同
同		同	丹波	冷光社	同	同
同	七日	座繰器械	一括	相摸	高揚社	再繰、繊度、類節、強力、伸度、	同	伸
同		同	五括	上野	……	同	三井物産
同		同	上野	……	同	同
同		同	上野	……	同	同
同		同	一個	羽前	長井組	原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度、	蔦木
同		同	信州	合名会社明社	同	同
同		同	甲州	八幡製絲場	同	同
同		同	近江	近江製絲株式会社	同	安田
同	八日	同	信州	開清館	同	小野
同		同	同	長信社	同	同
同		同	同	明功館	同	同

請求月日	請求人	産地	製産者	検査項目	請求人
九月八日	一個	器械	信州	有明社	原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度、	小野
同		同	得信社	同	同
同		同	信厚社	同	信厚館代澤
同		同	三河	前田製絲合名会社	同	前田製絲社代滝澤
同		同	信州	岳旭館	同	岳田館代澤
同		同	盤城	三盛合名会社	同	三盛代原
同		同	信州	松代製絲合資会社	同	原
同		同	東英社	同	同
同		同	相摸	相摸漸進合名会社	同	同
同		座繰器械	一個	和歌山	明治製絲株式会社	原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度、練減、	蔦木
同	九日	同	三河	北川製絲場	再繰、繊度、類節、強力、伸度、	同
同	五本	同	陸中	菅川虎之助	同	菅川代吉野
同		座繰器械	一括	陸中	菅川虎之助	同	菅川代吉野
同	十日	同	駿河	師岳製絲合社	原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度、	木村

◎神戸生絲検査所生絲検査調

神戸生絲検査所に於て八月中検査せる生絲は左の如し

九月十日	座繰器械	一個	陸中	菅川虎之助	原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度、	吉野
同十一日	同	器械	備中	足守製絲合社	同	山田

個數	産地	製産者	検査項目	請求人
個數	産地	製産者	検査項目	請求人
一括	兵庫縣	日下製絲場	再練、繊度、類節、強力、伸度、	神榮株式會社
俱馬				
六個	廣島縣	備後製絲會社	同	同
福山				
五本	大坂府	堺製絲株式會社	同	同
堺市				
八本	大坂府	大坂府農學校	同	同
鳴橋村				
一括	京都府	郡是製絲株式會社	同	同
五本	綾部村			
個數	産地	製産者	検査項目	請求人
九十一	月器械	備中	下道製絲會社	原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度、	山田
同	同	伯耆	名島長三郎	同	名島
個數	産地	製産者	検査項目	請求人
六個	廣島縣	四備製絲會社	再練、繊度、類節、強力、伸度、	神榮株式會社
福山				
三個	香川縣	高松製絲所	同	同
高松				
五本	兵庫縣	堺製絲株式會社	同	同
出石町				
六本	京都府	京都製絲合資會社	同	京都製絲合資會社
上京吉田町				

◎地遣絲の汽船輸送

水害の爲め鐵道不通となりて横濱より京都及福井に向け積出したる地遣絲の名古屋に空しく停滯し居るもの三百餘個に及びたるに之が需用地にありては織物の景氣頗る宜しく既に原料の缺乏を來し到底停滯品の着荷を待つ能はざるより新に買注文を發し横濱より汽船にて海路輸送を求むるに至り現に去る十八日京都向の品五十餘個を伊藤、高文諸店より郵船會社の汽船に積み神戸に向けて送出せりと云ふ

◎山梨縣の蠶種檢査

山梨縣の蠶種檢査は去る明治二十六年來原種製絲用種共に悉皆原繭の檢

査より製造後器械的檢査を施すことゝなりしを以て原繭檢査員は縣下蠶業家中より六十餘名を撰用して過般來各製造家に就き厳密に檢査せしめ器械的檢査は本月一日より甲府、石和、日下部、大原、谷村、上野原、韮崎、菅原、鰍澤、睦合の十ヶ所に檢査所を開きて專ら事務を取扱ふことゝし檢査員は在本縣檢査員の外に西ヶ原蠶業講習所長の紹介により群馬、茨城、愛知、滋賀、東京、京都の諸府縣より新に增聘し都合四十名にて助手員五十餘名と共に日々檢査に從事せり今日までの成蹟に據れば本年春季各府縣の作柄不良なりしにも拘はらず本縣は幸にも良好の結果を收めたる爲めにや不合格の繭種は至りて少なく實に好成蹟なり（九月十二日附會員今井保一郎氏報）

◎宮城縣名取郡西多賀村の蠶況　本村は五つの大字を以て成る村にして戸數千に垂ゝとし四年前は點々一二の養蠶家あるのみなりしが其後非常に長足の進歩をなし當時は過半の養蠶家あるに至りしは實に國家の慶事と謂ふべし中にも大養蠶家は平附三十枚内外を掃立つ然るに本年は過半の霜害に罹りし爲め一齡中桑葉非常に騰貴し斯の如き暴價にて四五齡に至らば必らず收支相償はざるの境界に陷らんと心配し諸養蠶家は爲めに或は總掃立枚數の半を棄つる等の議紛々たり僕大ひに之を憂ひ此の桑四五齡に至らば必らず有餘を生ずるに至るべし如何となれば外養蠶家は被害の爲め必らず多少掃立枚數を減ず可くして被害の桑は漸く繁茂するに至る可きを說きしに果せる哉四齡頃より桑葉非常の廉價にて賣買になり尙ふ餘りて夏秋蠶を飼ふ如き反比例を呈せり凡て本村本年の養蠶は八分の作たり（會員小畑清七氏報）

◎露國高加索の養蠶業　左に收錄するものは本年五月發兌の澳國東洋月報に所載の露國高加索の養蠶業景況に係る

ペツーム在勤澳國副領事の年報に據れば高加索の養蠶業は既に久しき以前より行はれ一時は大に盛を將來に屬すべき狀勢を呈せり即ち千八百四十七年より千八百五十二年に至るまでウォロンツォフ侯の總督たりし時に於て高加索の養蠶業及絹業が頓に盛大に赴きたるは左表に示す計數に於て明なり

年次	絹絲輸出價額
一八四七	七六、一〇九留
一八四八	六二、二六九
一八四九	一〇六、五一八

年次	絹絲輸出價額
一八五〇	二五〇、八四九留
一八五一	三五六、八七八
一八五二	八三〇、五〇四

現今同地方の養蠶業は往時に比すれば固より盛大ならざるにあらざるも其進歩の程度に至りては復た昔日の如く迅速ならず近來全高加索地方の絹絲輸出價額は一年間に二百五十萬乃至三百萬留に達し繭の產出高は五十萬乃至六十萬「プード」（一「プード」は凡そ四貫三百六十匁）に上る見積なり生繭の相場は一「プード」に附き十乃至二十五留、乾燥繭の相場は二十五乃至四十五留の間を昇降せり高加索の養蠶業に每年供給せらるゝ蠶卵の數量は益ゝ增加するに拘はらず產繭高の增加微々たるを見れば同地方の養蠶業は現に盛況を呈するものと謂ひ難く又將來盛大に赴くべき見込ありとも謂ひ難し他の諸國に於ては一「ゾロツニック」（一「ゾロツニック」は一匁一分餘）の蠶卵より十五乃至二十「プード」（一「プード」は凡そ百九匁）の生繭を收獲するを常とするが露國に於て其收獲僅に四「プード」

に過ぎざるは一は蠶兒の取扱方不充分なるとに由らずんばあらず露國政府が養蠶業及絹業を奬勵することに就きては大に觀るべきものあり例へばチフリスの蠶業取扱所の如きは其組織完備して模範と爲すべきものなるも養蠶業者の多數は毫も進歩の域に達せず斯る狀況なれば蠶兒の傳染病は驚くべき速度を以て蔓延し政府の奬勵も之がために阻害せらるゝことは甚しとす露國の養蠶業は概して貧民の職業に屬するが故に右の如き狀況に陷るは自然の勢にして深く怪むに足らず桑圃の所有主は大抵之を貧窮の農夫に貸附し其貸附料として繭純收入の二分の一又は五分の二を納付せしむるを常とす借圃人は養蠶業進歩の何物たるを解知する者甚だ少く大抵は蠶種商に對する負債の犧牲と爲る者多し蓋し蠶種商の狡猾なる最初は購買者を誘誘するに良種の蠶卵を以てし後には漸次惡種のものを供給するに至る從來同地方に輸入したる蠶種の內現今最も多く養成せらるゝは土耳其より輸入したる所謂「バグダット」種にして高加索地方養蠶業者の手に成れる蠶種は大抵收獲を見る能はず而してチフリスの養蠶業取扱所に於て養成したる蠶種の如きは未だ需要の百分の一をも充たすに足らず尤もコーカンド產の蠶種は需要頗る多しと云ふ

昨年中高加索地方の蠶種需要高は少くも六百「プード」に上れり其代價一「ゾロッニック」に附き五十乃至八十哥とすれば同地方は此種の商品に對し凡そ百十五萬二千乃至百八十四萬三千留を支拂ひたる計算にして其三分の二即ち仲買商の利益と爲りたる分を引去りたる殘額は外國へ流出したるものなり

高加索產絹絲の一部分は莫斯科へ他の一部分は外國へ輸出せられ尙ほ印度へも輸出せらるゝなり

●歐洲流行絹紐の注文　近頃歐洲に於て流行する絹紐は婦人服の粧飾に用ゐらるゝものゝ由にて橫濱の某商館は西村商店との間に注文取引を爲せしと右は本邦へ始めての注文品なれど歐洲にては婦人社會に專ら流行し居れば將來は一の輸出品となるべしと云へり

●蠶兒生育景況　靜岡外二縣及び北海道に於ける本年蠶兒生育の景況は左の如し（本會報第四拾八號、第四拾九號參看）

	掃立の初終	掃立枚數の增減	生育の眞否	桑葉の過不足	收繭の豫想
靜岡縣	四月中旬より五月上旬	前年に比し三割內外增加	生育佳良	不足	前年に比し二割內外減收の見込
愛手縣	五月上旬より同下旬	前年に比し增加	生育佳良	過不足なし	平年に異ならざる見込
青森縣	五月上旬より同下旬	平年に比し增加	生育佳良	稍〻不足	平年に比し五割以上增收の見込
北海道廳	——	——	——	——	平年に異ならざる見込

●森成次郎氏の名譽　大日本蠶絲會員石川縣河北郡金津村實力館主森成次郎氏の蠶絲業改良擴に非常に熱心なることは世人の既に熟知する所なるが今回石川縣羽咋郡長より氏の功勞を愚めんが爲めに左の感謝狀を添へて銀盃を贈與せり

石川縣河北郡金津村

森　成　次　郎

夙に養蠶業の改良啓發を謀り明治廿七八九年中自費を投じて本郡各村を巡回し蠶兒飼育及桑樹培養等の方法を示諭し該業者に幾多の稗益を與へ當郡蠶業の發達を助く依て本郡會の決議を經銀盃壹個

を贈與し以て其功勞を愚む

明治廿九年九月十日

石川縣羽咋郡長從七位　大森孝次郎

◎神戸港生絲貿易開始期

神戸港に於ける生絲貿易開始期は本年を出でざるべしといふ其説に據れば本年新絲以來同港に入荷せし生絲は決して少數にあらずして神榮會社の在荷のみにても二百五十個あり其他の分をも合すれば無慮三百個に垂んたるの數に達すべく而して此等は孰れも同港に於て取引せんとの見込みにて輸送し來りたるものにして之を取引せんとせば其取扱を爲す商館とても決して乏しきにあらず即ち居留地一番館、八番館、二十五番館、二十六番館、八十八番館、百十番館の如きは曾單に屑絲のみならず廣く生絲の取引をも營業とするものにして現に神榮會社の如きは遠般來此等の商館と商談を試みつゝあり然るに未だ實際の取引を爲すに至らざる所以のものは海外の絲況不振なるに加へ地元案外の高價を唱へ直段の喰ひ合はざるが爲めのみ若し直段さへ折合へば今日とても多額の取引を見ること敢て難きにあらず假令今日に於ては容易に折合はざるにもせよ熟ら絲況の大勢を觀察するに海外の不振とて何時までも持續すべきものにあらず回復の期も遠きにあらざるべし少しにても回復の兆を現はすに至らば必ずや商談も纒まるべし要するに絲況の不振は多少同港に於ける生絲貿易開始の期を遲緩ならしめたりと雖もさりとて來年までも遷延するが如きことは斷じてなかるべく今年中には少くも數百個の取引を見るなるべし且つや日本生絲貿易株式會社開業の期も數旬を出でず同社にして愈よ開業する上は活潑の運動を試むべければ本年中に案外多額の取引を見るやも亦計るべからずといふに在り

◎三日間の生絲取引高

爲替相場暴落の爲め米國安直注文を控へ居たる横濱居留地外商は去る十四日以來大に買進み爾來三日間に於て千八百九十三個を買約し是が爲めに相場も十弗或は品に由りては十二弗半の高直を示したるに爲替は十六日後場に至りて俄に引返して五十弗を呼び十七日は更に五十弗五十仙に騰進したるより新規買聲途切れて殆んど休業の姿となりたり而して今後如何なる結果を見るべきやは未だ知ること能はざれども爲替にして再び低落せば格別の直押もなく閑散の結了を告ぐるならんが若し又引締りたらんには今後の結果は大に憑念すべきものあり聞く所に據れば外商中には安爲替の買入れを爲さずして生絲の買入れを急ぎたる向きもありと云ふ今三日間の賣約、結了、及び破談を擧ぐれば左の如し

		賣約高	結了	破談
十四日		七百三十二個	百十八個	十個
十五日		八百七十四個	二十一個	三十五個
十六日		二百八十七個	二百四個	三十五個
合計		千八百九十三個	三百三十三個	八十個

◎繭の改良は刻下の急務

本邦普通の繭は輪皺形にして胴の中央陷凹せるもの多し然るに此繭を以て繰きたる生絲は檢尺器に上せ、デニールを試めし、乾燥室に入れ、顯微鏡に映すに至りて其成績宜しからず即ち繭の陷凹せる部分纖維非常に悪しく類節多くして倒底經絲に供用すべからざるな

りされば本邦製絲の改良を圖るには先づ其原料たる繭の改良を圖らざるべからず伊太利なり佛蘭西なり其所産の繭は本邦繭の如く輪鼓形にあらずして眞の楕圓形を爲せり故に其纖維も一定して本末終始不同あるなし本邦に於ても亦斯る繭を造る所の蠶を飼育せざるべからず然るに輪鼓形の繭を造る所の蠶に在りては啻に其飼育の比較上容易なるのみならず收繭も亦割合に饒多なるが故に人情として從來のものを飼育せんと欲するなるべしと雖も此際當業者の奮發一番を要せざるを得ず而して製絲家が繭を買入るゝにも楕圓形のものは輪鼓形のものよりも高價に購求することゝなし以て第一等の經絲を製出する覺悟あらざれば日本生絲の聲價を發揚すること難し斯業に從事する者支那に於ける蠶絲事業を察し彼れに壓倒せられざるやう內地の蠶絲改良に心を用うるは實に刻下の急務なり

◎生絲の在荷稍減少す　前日來增加一方なりし横濱の生絲在荷も一時爲替相場の下落により二千個內外の賣行きありたると昨今入荷の減少せる爲め去る十七日の現在高は二萬五千九百六十七個の少數となれり其內譯は左の如し

器械	一萬七千九百三十六個半	奥濱	百六十七個半
座繰	六千九百三十二個	提絲	三十九個
折返	八百七十個	取合	二十二個

◎糸魚川繭品評會　新潟縣西頸城郡に於ては去月十五日より向ふ三日間繭品評會を開設せり今同會審査長（大日本蠶絲會員）松田小吉氏の通信に據り其概況を記せんに同地にて繭の品評會を開きたるは今回が初めてなるにも拘はらず開會中の參觀者は數百名の多きに達して頗る盛況なりき是全く品評會々長（郡長）安部致品評會主任（郡書記）武內彌廣兩氏が盡力の結果に外ならずといふ扨十五日に開場して十七日に褒賞授與式を擧行せるが當日式場に列せしもの百名以上にして午後二時第一鐘聲にて一同着席第二鐘聲にて松田氏は審査に關する報告を爲し夫より順次に賞狀及賞品の授與を爲し安部會長は繭品評會開設の主意及本業に對する希望を述べ續きて出品人總代某の答辭あり次に松田氏は會長の請求に由り審査の方法及審査の結果に付短所を指摘して之が改良の方法を述べ四時式全く終りたれば紀念の爲め一同撮影し四時半より共樂亭に於て審査員一同の慰勞會を開き席定まるや武內氏は開會の主意を陳べ安部氏は今回出品の多數なりしを一同に謝し其他兩三名の演說あり松田氏は審査員一同を代表し謝辭を兼ねて蠶業上に關する所見を演述し最後に伊藤亘氏は本年西夕原に於て硬柔葉試驗の結果より該地蠶業の有樣に論及し一同に感を與へ終りて酒宴に移り午後八時頃散會を告げたりとぞ松田氏が審査上の報告を左に摘抄す

該地は春蠶、夏蠶共に豐作ならざりしも當局者勸誘の力に由り出品總數七十三點に達し八月十五日開會式を行ひ同日審査に着手し十六日を以て審査を結了し十七日賞狀授與式を擧行せり其結果は春蠶繭に於て優等賞一點、一等賞二點、二等賞二點、三等賞七點、褒狀九點、夏蠶繭に於て一等賞一點、二等賞一點、褒狀六點、合計二十九點なりき

醵つて之を審査の結果に據り評言すれば色澤不良にして概ね赤色又は鈍味を呈し形狀不同緊縮佳ならず殊に殺蛹及び貯藏に至りては見るべきもの少なし故に機械的審査上大に困難を感ぜり若し該地蠶業の狀況を精査せば其關係種々あるべしと雖も第一色澤不良なるは蔟の製作及び結繭中の取扱ひ

を誤るに基き第二形狀不同にして緊緩佳ならざるは山野に自生せる無肥料の桑葉を以て拙劣なる飼育をなすに由るならん然しながら爰に嘉すべき一原因の存するあり何ぞや地方當業者は品評會の何物たるを了知せるもの稀なるを以て殊更撰別等の裝飾を加へざる是れなり殺蛹貯藏の方法に至りては更に不完全にして縱令繭の外觀美麗なるも蛹躰盡く赭褐色を帶び概ね黴菌を生じ爲めに機械的審査上解舒難澁切斷多く從て絲量を減じ加之色澤不良にして類節多きが爲め良絲製造の原料に適せざるもの多し是れ殺蛹の時期を失し乾燥法の宜しからざるに由るや明かなり不肖案ずるに第二の弊害に至りては地方經濟の許さゝるを以て漸次の改良を要すべきも第一及び第三の弊害に至りては改善の策を講じ勸誘以て力めば數年を出でずして該地蠶業の面目を一新すべし云々

●昨今兩年の生絲集散比較　本年は各地方共に養蠶概して不作にして生絲の產額著るく減少を告ぐる次第なるが海外の賣行きも近年無比の不況にして唯僅かに爲替相場下落の作用に由りて去る八月中旬と本月十四、十五、十六の三日間に於ての取引のみ稍活潑なりしといふに過ぎざれば之を昨年に比較すれば其集散大に差違ありとす即ち之を對擧すれば

		入荷 昨年	入荷 本年
六	月	二千六百三十個	千七百四十五個
七	月	一萬六千五百十個	六千二百四十四個
八	月	二萬四千九百一個	一萬二千三個

		賣込	積戻	在荷
六	月	二千三百五十個	千六百六十五個	千四百十個
七	月	八千百七十六個	三百九十四個	一萬三百八十四個
八	月	二萬五百八十四個	三千百六十九個	一萬二千三百八十八個
六	月		二百九十二個	一萬三千四百二十四個
七	月		二百七十六個	一萬六千八百四十二個
八	月		七百四十九個	二萬三千二百二十五個

にして本年の入荷の減少、賣込みの少數、在荷の多數たるにも拘はらず內地景氣の爲めに積戻しは非常の增加を爲せり而して本年九月は去る十五日までの取調に依り昨年同月との計較を見るに昨年の入荷は一日平均七百個に當り賣込みは一日平均四百個となり積戻しは一日平均六十餘個なり而して本年は入荷二百八十餘個、賣込み百九十餘個の平均に當り何れも甚だしき減少を呈せるが入荷の斯く少數なるは上信地方こそ鐵道の便を失はざれ關西其他は水害にて汽車の不通より積出しを減じたる事情あ

り又積戻しに至りても重なる機業地との交通杜絶せし爲め去る七日以來は殆んど皆無の姿なり

◎札幌蠶業傳習所蠶況

北海道札幌蠶業傳習所に於ける本年の養蠶景況報告を見るに左の如し

札幌蠶業傳習所は本年より規則を改定し實業者の子弟を募集し同四月一日より入所せしめ傳習室を六室に分ち之を擔當せしめたり而して蠶兒發生以來氣候は二齡乃至三齡を除き概ね不順にして溫度昇降亦甚しく殊に五齡間は降雨連日に亘り發育稍〻遲緩の狀ありしも上簇時期に至り頗る健全に生長し別に障害を見す其蠶種、蟻量、收繭及製額等左の如し

蠶室	種類	蟻量	掃下月日	上簇月日	收繭量	製種額	受持生徒
一	青熟	六・〇(瓦)	五、三一	七、四	一・七三九(石)	糸一枚 三、八八一	二人
二	札幌青	六・〇	五、三一	七、四	一・七四五	〃 三、九四	五
三	又昔熟	四・五	五、三一	七、五	一・三六二	〃 四〇七	四
四	青	三・〇	六、一	七、五	〇・七九四	〃 一四三	四
	札幌青	三・〇	五、三一	七、五	〇・八七六	〃 六九	
五	小石丸	五・〇	六、一	七、五	一・三五六	〃	
	玉無青	一・八	六、一	七、六	〇・三九六	〃	
	赤大巢	二・六	六、一	七、六	〇・七六四	〃	
六	薄赤熟	三・〇	五、三一	七、六	〇・八四二	〃	
計	七	三・四九	—	—	九・八七四	〃	二六

（備考）右の外同所試驗室に於て貯桑飼育、玉繭減滅、野桑培養桑飼育比較、野桑培養桑給與時期等の試驗を施行せり但し其結果は之を略す

◎製絲工女堤上に悲泣す

本月八日午後六時日は已に沒して將に暮れなんとする頃岐阜縣厚見郡洲之上村忠節橋際（岐阜市の對岸）にて方縣郡長頁村のもの五名、厚見郡日野村のもの九名、西ノ庄、鏡島兩村のもの一名づゝ都合十六名の紅女雨中堤上に立ちシク〳〵泣き居る所へ同地方出張中の厚見各務方縣郡書記澤井彥四郎氏が來掛り之を見て其の事情を問ひしに件の紅女の答へける樣妾等は本巢郡本田村製絲業某方に傭はれ今日午前まで同家に在りしが午後に至り突然水害の爲め（同村は浸水せり）與ふべき食物なきに依り今より何れも自宅へ歸り呉れよとて數十名の抱え紅女を殘らず一度に出去らしめたり抱え主の命なれば强ひて其の家に止まらん樣なく涙ながら妾等十六名は同じ道を取り危難を冒して怖る〳〵歸途に就き茲まで來りて忠節橋を渡らんとすればアラ悲しや橋梁の一部破壞流失して渡ることを得ず進退こゝに谷まりぬ何とぞお情に妾等を救ひ各々宅へ歸らしめ玉へと泣く〳〵物語るを聞きて澤井氏は愍然に思ひ一同を取敢えず同村栗本太三郎方へ連れ行き雨宿りを爲さしめたるが何れも非常に空腹の摸樣（本田を出づる時既に充分の食を爲し居らざりしものか）にて食を乞ふに依り栗本氏方にては夫々之に食物を與へ居りしよし其の後長頁川は未だ渡船（官吏等非常の賃銀を給するものゝ外）を通ずるまでに減水せざれば矢張り十六名とも同家にて厄介となり川の明くを待ち居るならんと云ふ因に件の紅女等は抱え主の無情を嘆き此の水治まるも復び彼の製絲家へは赴かず他へ轉ずべき積りなりと語りたりとはさもありなん

◎琵琶湖の氾濫と江州の製絲場

去る六日の夜より降り續きし大雨の爲め翌七日に至り江州の諸川暴漲し同夜長濱町を距る東北一里許の地に於て姉川堤塘決潰し奔流直下長濱町に氾濫し全町

二千有餘戶悉く浸水して低處は殆んど軒に達し高處も尚ほ床上四五寸に及べり何分前代未聞の大洪水と云ひ特に夜中嘯嗟の出來事なれば市街の混雜謂はん方無く各戶概ね身を以て免れ家財を擧げて濁水に浸したり斯くて八、九、十の三日尙降雨あり十一日の夜には暴風あり諸川の汎濫は前日の如く甚しからざるも甚猛湖の增水非常にして常水面より高きこと實に一丈四尺に達し河水漸く減退するも全町依然水中に在り今後天候順に復するも常水面を見るは七八十日の後に在る可く避難者の淺處を求めて群集する狀、實に慘憺を極め舟筏の徵發、糧食飲料水の供給等當局者の盡力到らざる所ろ無く有力者亦各自應分の救助を爲しつゝあり下鄕傳平氏の如きは遙に京都より白米五十俵を回漕し賑恤に供したるが事態斯くの如くなるを以て縮緬機業家の如き當分休業の外無く而して今回の水害は殆んど本縣下全躰に亘るを以て山中、彦根、瓦巷、八幡、磯野の各製絲場は爰許數十日間は休業すべく近江製絲會社の如きも今尙休業中なりされば本年に於ける生絲の產額は異常の減少を見るべしとなり

◎叙任及出張　大日本蠶絲會員にして過般來叙任及出張辭令を受けられたる左の者如し

生絲檢査所技師今西直次郎氏は九月十日十級俸を下賜せらる
蠶業絲檢査所技師足立元太郎氏は九月十四日高等官七等に陞叙せらる
蠶業視察と巡回の途に上れり蠶業講習所技師松永伍作氏は農商務省の命を奉じ客月來北海道の蠶業視察を爲せるが此程了りて歸京の上更に兵庫岡山熊本三縣の蠶業講習所技手二宮鶴松氏は農商務省に於て客月中愛知三重兩縣下の養蠶傳習場及び製絲場の景況調査を命ぜられ目下巡回中なり
農商務技師紫藤章氏は同省に於て神戶生絲檢査所に出張を命ぜられたり

◎岩田次郎氏　大日本蠶絲會員茨城縣北相馬郡高野村岩田次郎氏は農科大學に於て農學科乙科を卒業し本月二日卒業證書を受領せられたり

◎藍綬褒賞下賜　公同の事務に勤勉せし廉を以て去月二十九日賞勳局に於て藍綬褒章を下賜せし者左の如し

資性温良風に接し自治の發達を謀り徐業を尙びて繁習を煉め製蠶の創始者たり
置委員に郡選され寒暖自治の發達を謀り徐業を尙びて繁習を煉め製蠶の創始者たり
金穀を出すべく鄕民なる組すべく公同の事務に勤勉すること三十餘年其勞效顯著なり

茨城縣常陸國新治郡牛渡村藥師寺清右衛門
縣會議員に選ばれ村會議員に舉られ任滿つるも再三聲選し常に勸會議員に舉られ任滿つるも再三聲選し常に勸會議員に舉られ任滿つるも再三聲選し常に勸

●會員諸君に要望す

蠶絲業に關し高見卓說を有せらる諸君は何卒御投稿相成度且又御見聞の次第も有之候はゝ隨時御通信あらんことを希望す但表題は兎角紙面を多く要し候に付各景況の如き可成文章は綴りて御報告相成度候

大日本蠶絲會

●會費の件

會費未納の諸君は至急御拂込有之度尤も支會の設置有之地方の會員諸君には其支會へ直ちに御拂込相成度候也●郵便爲換は拂渡局を東京神田郵便局に其證書中「差出人は此處に受取人の宿所氏名を記すべし」とある下に「東京神田區美土代町二丁目一番地大日本蠶絲會」と御記入相成るべし●現金にて通運便に托し御拂込の節は配達賃必ず御拂込濟に相成るべし●郵便切手代用の節は必ず一割增しにて御送附相成るべし

大日本蠶絲會

●質問者の注意

質問書は半紙又は美濃紙を用ひ必ず一紙に一件を限り其字幹は成るべく楷書又は行書にて明瞭に認め且其住所氏名を明記せらるべし

大日本蠶絲會

●大日本蠶絲會規則

右刷成に付御要望の諸君は郵便切手貳錢を添へて其旨本會へ御申越あるべし直ちに送附す

大日本蠶絲會

●入會の勸誘を望む

本會は本邦蠶絲業の改良進步を圖るを以て目的とするものにして創設以來日尙ほ淺きも入會者は陸續として增加し今や已に當初の會員に十數倍し栃木、新潟、富山の三縣には支會の新設をも認可するに至り會運は宛も朝暾の昇るが如く駸々乎として隆昌の域に向へり是れ固より有志家諸君が熱心蠶絲業の發達を企圖せらるゝの精神に基くと雖も然れども亦本會が斯業に向つて裨益する大且つ多なるに由らずんばあらざるなり而して其根軸たるべき事業を開發せしむるには本會員の汎く全國に涉りて最多數なるにあらざれば其の効用の多きを收むること難く其の目的を達するに足らざるものあり就ては會員諸君は精々本會へ入會者を勸誘せられんことを希望す

但本會へ入會せらるゝ人は一ヶ月金拾錢の割合にて一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるゝを要す　尙ほ本會規則入用の方は郵便切手貳錢を添へて御申越相成度直に郵送可致候也

大日本蠶絲會

長沼辨次郎著編述

●原理 應用 **栽桑新書** 圖入美本 全壹冊

賣價七十五錢 郵稅八錢

此書は桑樹栽培に付最も適切にして發兌以來頗る喝采を博したる良書なり蓋し學理を應用し勉めて字句を簡明にし情畫を挿入し實用を專務としたる等本書の特長として歡迎せらるゝ處なり

農商務省技師 松永伍作君著述

●蚕桑 **桑實驗說** 彷彿圖入 全壹冊

賣價五十錢 郵稅六錢

〔代金は郵便爲替、南傳馬町郵便請取所、振〕〔當の事郵便切手代用は當割增に限る〕

技師の講述養蠶術講義あり蠶業界此書の右に出るなしとは世既に定論あり今又本書の成るを聞く哉購客をして早く渴仰翹望止まさらしむ故に敢て資歸せず只此書は技師の實驗を經て未た世人に紹介されさる最も **蘄新有益なる諸說を網羅** せるものにして蠶業上古今未曾有の最大 **良書** と言はんのみ

發兌 東京々橋區南傳馬町壹丁目 **穴山篤太郎**

廣告

農事新報

第九十五號

八月二十日發行

一冊八錢郵稅五厘十冊前金郵稅共金七十五錢見本は九錢前金に非ざれば送付せず郵券一割增

●論說○本邦製茶改良上の注意○本邦產地蕃に關する注意○日清戰爭の經濟上の觀察○博覽會審査梗概（承前）●寄書○麥奴豫防試驗成蹟○胡蘿蔔栽培法○稻刈期節○蠶種製造家の猛省を仰ぐ○農家肥料の三大害○歐洲養蠶衰頹の基因附本邦蠶種の成蹟●雜錄○稻作試驗の結果○紫雲英試驗○油菜栽培法○バナヽリの棲所○馬鈴薯病●問答●牛乳に馬鈴薯○馬具の材料●種苗○紙件●雜報には有益なる要件數十あり

發兌 東京々橋區南傳馬町二丁目 **有隣堂**

●蠶種桑苗蠶書蠶具類定價表御用の方に郵券壹錢御送付あれば蠶業新報書部相濟早速送呈

蠶業用達 東京芝區高輪南町井番地 丸山舍

廣告

意外の好評を以て大多數賣盡し品切れに依り久敷蠶絲家各位の厚意に背きし養蠶實用舶來乾濕計新荷着仕候

養蠶實用 **舶來乾濕計** 壹具 金壹圓貳拾錢

舶來品にして價廉なり

湯暖計其他温暖計を代用す

度目は攝氏華氏對照なり

度目の精確なる他に比類なし

荷造は弊舗自辨なり

弊舗今回發賣仕候舶來乾濕計の義は世間の粗造品と異なり海外有名會社製品中精確のもの内より最も度目正確の分撰拔仕り候義に有之候元來舶來品は和製品と比較仕り候へば優等なるは勿論に候へ共隨て價格高直に相なり却て御不便に候處今回發賣仕り候分は舶來品にして度目は最も精確を究め且つ價格も廉價と存じ候何卒大方各位弊舗微意のある所を賛せられ續々餌使用の程偏に願上候也

尙右乾濕計の義は取外し自在に攝氏華氏兩目盛に付取外して湯暖計等を兼用候へば製絲釜の温暖計をも相勉め至極便利の品に有之候

當今の內御試驗被下候上來期節に御使用に相成候はゝ充分御効力も有之べくと愚考仕候

顯微鏡 養蠶用 解剖用 時計及裝飾品類 顯微鏡、兩眼鏡、諸器械 養蠶用 醫療理化學器械

商 東京市日本橋區本町三丁目十一番地 **玉屋支店**

等其他種々着荷仕り居候に付御入用に候はゝ御照會被下度詳細御答可申上候

明治二十七年八月廿五日逐信省認可

大日本蠶絲會報第五拾號目次

●論　說　　農學士　河原次郎
○生絲の改良に就て　　松田宗兵衛
○蠶の改良に就て　　中文助
○軟化剤に就きて

●寄　書　　佐藤國藏
○生絲貿易不振の原因を論駁し進で前途の好望を論ず　　橋本重兵衛
○四化蠶に就て

●統　計
○二十九年六月中生絲屑物輸出元價及收稅統計○二十九年六月中組糸類輸出數量元價統計○既往二ヶ月間横濱生絲出入統計

●問　答
○組害に就て質問并に答○蠶組に就て問ふ并に答○稚蠶掃別方に就て問ふ并に答○蠶兒生育及蠶繭鬻充に付き質問并に答

●外　報
○佛國製絲奬勵金據算定額の經歷○上海蠶絲商況

●雜　報
○横濱生絲檢査所の區轉式○生絲檢査の組織及方法○蠶業講習所修業證書授與式○故巴斯篤博士頌德碑式○韓人の蠶絲業視察○杭州製絲及紐織物の隨貨○信州松本の水害○各地の夏秋蠶○横濱生絲檢査所生絲檢査調○生絲輸出不振の原因○米澤に於ける繭紬○密東輸出の生絲及相場○山口縣農學校の養蠶科○桑皮綿の事實報告○清國無錫に於ける繭取引○識訪製絲家の中數休業○横濱繰糸の稍好況○新生絲商館の開業○地遠絲の好況○川合菊次郎氏○新潟縣養蠶社の蠶況○奈良縣高等養蠶所概況○蠶業見玉組中合規約○松田小吉氏の演說

本報廣告料　一行五號活字廿二字詰前金八錢三十行以上は割引すべし

本報定價　一冊前金拾貳錢　一ヶ年分前金壹圓貳拾錢

明治廿九年九月二十九日印刷
同　九月三十日發行

編輯人　粂山鈞　東京市小石川區小石川水道町廿九番地

發行人兼印刷人　庄田誠太郎　東京市小石川區小石川諏訪町廿八番地

印刷所　秀英舍　東京市京橋區西紺屋町二十六七番地

發行所　大日本蠶絲會　東京市神田區美土代町二丁目一番地